HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	1942 年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉 ― スロバキア，ルーマニア，ハンガリーを例にして ― …エドゥアルド・ニジニャンスキー（著）
著者	木村，和範；KIMURA，Kazunori
引用	北海学園大学学園論集(189・190)：133-170
発行日	2023-03-27

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

1942年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉*

―― スロバキア，ルーマニア，ハンガリーを例にして ――

エドゥアルド・ニジニャンスキー（著）**
木　村　和　範（訳）***

【要　旨】

本稿の目的は，1941年～1942年におけるスロバキア，ルーマニア，ハンガリー三ヶ国からのユダヤ人強制移送にかんするナチス・ドイツの外交交渉を比較することである。この比較が可能であるのは，スロバキアだけでなく，ルーマニアとハンガリーもまたナチス・ドイツと同盟を結んでいたからである。分析対象となった三ヶ国すべてが，当時は（あるいはもう少し長い期間をとって1941年～1943年でも），ドイツに占領されてはいなかった。このことも重要であると筆者は考えている。これらの三ヶ国においては，過激さの度合いには差があるが，ユダヤ人の強制移送が取り沙汰されるまでに，すでにその国独自の借り物ではない反ユダヤ主義的政策が実行されていた。措定した問題を考察するときに，我々の認識の劈頭にあったのは，ナチス・ドイツがどの国にたいしても，独自に執られていた反ユダヤ政策を梃子（てこ）とし，そしてそれを制度として定着させようとしたということである。強制移送について各国と交渉するときに，ナチス・ドイツは，ホロコーストの実行に際しての協力にかん

＊Eduard Nižňanský, “The Discussions of Nazi Germany on the Deportation of Jews in 1942 — the Examples of Slovakia, Rumania and Hungary,” *Historický časopis*, [The Historical Journal,] 2011, 59, Supplement, pp. 111-136, Bratislava. ただし，「要旨」はドイツ語で執筆されている。翻訳の過程で，数回に亘る照会に応じた原執筆者により加筆がなされた。短い加筆は本文に入れたが，12ヶ所に亘る長い加筆は番号を付して，「補注」とした。このために，訳文は，上記原著とは異なる箇所がある。各章の番号付けは訳者によるが，章のタイトル２～５は執筆者により，１は訳者による。また，論文末尾に掲載した地図２葉は邦訳のために新たに訳者に送付された。［　］内は訳者による。原著者の許諾を得て翻訳出版。

＊＊コメニウス大学（スロバキア，ブラチスラバ）芸術学部一般歴史学科教授
Prof. Dr. Eduard Nižňanský, CSc. (Department of General History, Faculty of Arts, Comenius University Bratislava)

＊＊＊本学名誉教授

して基本的に同様の問いを発した。このことも，三ヶ国比較を可能にしている。(ただし，第三帝国への各国の回答とドイツ側の思惑・要求にたいして執った各国の対応には違いがある。) この外交交渉を分析して分かることは，ナチス・ドイツが，万難を排してまでヨーロッパ全土でホロコーストを実行しようとはしなかったということである。ドイツにとっては，戦争に勝つことのほうがはるかに重要であった。そのためには，各国を武力で占領するよりも，ナチスに協力させることが，重要であった。衛星国と同盟国が安定していれば，第三帝国はその国の軍需産業を利用することが可能となり，各国の軍事力が東部戦線のナチスを支援することになる。ナチスは実利的な判断を下したのである。戦争に勝ちさえすれば，いずれは(ユダヤ人だけでなく) ヨーロッパを意のままにすることができるからである。この結論を補強するのは，研究対象とした期間においてはルーマニアとハンガリーが強制移送に踏み切らず，そうだからと言って，この二ヶ国の上層部の政治力が失墜したり身柄が排除されたりはしなかったという事実である。これにたいしてスロバキアでは，強制移送を早めに手がけた同国の行政府や立法府からの手厚い支援のおかげで，ドイツ側は強制移送ができるようになった。

1．概説
2．スロバキア
3．ルーマニア
4．ハンガリー
5．結論

1．概　　説

ホロコーストの経過を国別に比較することによって，ホロコーストにかんする知見を深める可能性が開けてくる。その一例として，ユダヤ人の強制移送をめぐってナチス・ドイツと中欧三ヶ国の間で行われた1942年の外交交渉を比較してみることにしよう。

1．この比較のとき劈頭に据えるべきは，スロバキア(1)，ルーマニア(2)，ハンガリー(3)

(1) スロバキアの立場については次を参照。Petruf, Pavol, “Zahraničná politika Slovenskej republika (1939–1945),” [“The Foreign Policy of the Slovak Republic (1939–1945),”] in: *Historické štúdie*, 38, Bratislava: Veda, 1997, p. 7–42; Suško, Ladislav, “Obsadenie Slovenska — posledná fáza nacistického ovládania Slovenska,” [“The Occupation of Slovakia — Final Phase of the Nazi Domination of Slovakia,”] in: *Archeológia* —

の三ヶ国がナチス・ドイツと同盟関係にあったことである。ナチスの同盟国（ルーマニアとハンガリー）と衛星国（スロバキア）とでは若干の違いはあるが，外交，軍事，経済政策など各国の立場を規定しているのは，第三帝国との同盟関係だからである。

2．比較対象の三ヶ国はいずれも，1942 年はもとより，もっと長く 1941 年から 1943 年までをとって見てもドイツの占領下に置かれることがなかった。ハンガリーとスロバキアが占領されたのは 1944 年である。

3．この三ヶ国は，ヨーロッパの他の多くの国々と同様に，過激さの程度は異にするが，すでに自国独自の反ユダヤ政策[4] を実施していた。

4．ナチス・ドイツは，国ごとに執られていた反ユダヤ的政策を梃子（てこ）として，それを制度の中に組み込ませようとした。比較問題の考察には，このことを基点とすることが肝要である。ドイツの在外公館，親衛隊保安局（Sicherheitsdienst：SD）などの出先機関は，スロバキア，ハンガリー，ルーマニアにおける反ユダヤ的政策が，法令の中にも制度の中にも具体的に表れているかをベルリンに報告した。

5．ナチスは，現地からの報告を分析し，それに基づいて，たとえばユダヤ人の強制移送のような施策を遂行するときに，どのような協力が得られるか，あるいはどのような問題があるかを様々に思いめぐらせた[5]。

---

história — geografia, Nitra: Archeologický ústav SAV, 1991, p. 63–83; Suško, Ladislav, “Slowakische-deutsche Beziehungen 1938–1945 unter dem Prisma psychologischer und subjektiver Faktoren,” in: *Der Weg in die Katastrophe. Deutsch-tschechoslowakische Beziehungen 1938–1945*, Essen: Klartext Verlag, 1994, p. 241–244; Tönsmeyer, Tatjana, *Das Dritte Reich und die Slowakei 1939–1945: Politischer Alltag zwischen Kooperation und Eigensinn,* Paderborn: Schöningh, 2003; Nižňanský, Eduard *et al*., *Slowak-deutsche Beziehungen 1938–1941 in Dokumenten I. Von Muenchen bis zum Krieg gegen die UdSSR,* Prešov: Universum, 2009; Nižňanský, Eduard *et al*., *Slowak-deutsche Beziehungen 1941–1945 in Dokumenten II. Vom Krieg gegen die UdSSR bis zum Untergang der Slowakischen Republik im Jahre 1945,* Prešov: Universum, 2010.

(2) ルーマニアの立場については次を参照。Balta, Sebastian, *Rumänien und die Großmächte in der Ära Antonescu (1940–1944)*, Stuttgart: F. Steiner, 2005; Dinardo, Richard L., *Nerovní spojenci. Německo a jeho evropští spojenci od koalice ke zhroucení,* [Unequal Allies. Germany and its European Allies from Coalition to Ruin,] Brno: Nakladatelství Jota, 2006.

(3) ハンガリーの立場については次を参照。Durucz, Peter, *Ungarn in der auswärtigen Politik des Dritten Reiches 1942–1945,* Göttingen: V & R Unipress, 2006.

(4) より詳しくは，Hilberg, Raul, *Die Vernichtung der europäischen Juden (vol. 3),* Frankfurt a. M.: Fischer Verlag, 1999, p. 811–926（望田幸男・原田一美・井上茂子訳『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』全 2 冊，柏書房，1997 年）参照。以下も参照。*Die Verfolgung und Ermordung der europäischen Juden durch das nationalsozialistische Deutschland 1933–1945. Band 13 Slowakei, Rumänien und Bulgarien,* Bearbeitet von Mariana Hausleitner, Souzana Hazana und Barbara Hutzelmann, Berlin und Boston: Walter de Gruyter, 2018; *Die Verfolgung und Ermordung der europäischen Juden durch das nationalsozialistische Deutschland 1933–1945. Band 15 Ungarn 1944–1945,* Bearbeitet von Regina Fritz, Muenchen: Oldenbourg, 2021.

(5) このことは，ヴァンゼー会議（1942 年 1 月）

6．ナチス・ドイツが各国と強制移送を協議するとき，第三帝国による段階を踏んだ反ユダヤ政策への協力について，各国にたいして似たような事柄を照会している。したがって，この点からも比較することが可能である。照会内容は似ていたが，それにたいする各国の回答は多様であった。端的に言えば，このことは，ユダヤ人登録から始まって，ユダヤ人マークの着用，企業や財産のアーリア化によって貧困化したユダヤ人の強制収容所への移送に至るまでの，ナチスの政策を辿(たど)ってみれば分かる。ナチス・ドイツは同盟国や衛星国との関係では優位な立場にあった。それにもかかわらず，第三帝国はユダヤ人問題を議論するときには古典的な外交術を用いて，ホロコーストの遂行や反ユダヤ政策の節目節目で各国から支持を得ようとした。その例となるのが，第三帝国領内にいる外国籍のユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用である。一見重要ではないこのような事柄でさえも，ナチスはユダヤの星の着用を一律に強行することはなく，当時のヨーロッパにおける同盟国，衛星国，中立国に配慮して，外交交渉を通じて同意を得ようとした。

7．とくにスロバキアとルーマニアについては比較が可能である。両国ではいずれもドイツ人顧問官（スロバキアではディーター・ヴィスリチェニー[(6)]，ルーマニアではグスタフ・リヒター[(7)]）がユダヤ人問題の解決に関与していたからである。ドイツ人顧問官の助

で，ヨーロッパから東方へのユダヤ人の強制移送が議論されたことからも分かる。詳しくは，たとえば以下を参照。Roseman, Mark, *Setkání ve vile u jezera. Konference ve Wannsee a "konečné řešení židovské otázky,"* [Meetings in the Villa by the Lake. The Wannsee Conference and the "Final Solution of the Jewish Question,"] Prague: Dokořán, 2003.（この著書にはヴァンゼー会議の公式記録の全文が掲載されている。）[「スロヴァキアおよびクロアチアにおいては，当該案件［ユダヤ人の大量移送 ―― 引用者］はもはや困難なものではない。両国においては，この件に関する重要な核心的問題はすでに解決されている。」(Beschprechungsprotokoll（いわゆるヴァンゼー会議議定書），p. 9，ヴァンゼー会議記念館編著，山根徹也・清水雅大訳『資料を見て考えるホロコーストの歴史 ―― ヴァンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策』春風社，2015年，115頁。)]

(6) より詳しくは，以下を参照。Hradská, Katarína, *Pripad Wisliceny. Nacistickí poradcovia a židovská otázka na Slovensku,* [The Case of Wisliceny. Nazi Advisers and the Jewish Question in Slovakia,] Bratislava: Academic Electronic Press, 1999.

［ヴィスリチェニーの経歴については，原執筆者の了解を得て，エドゥアルド・ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）『学園論集』第189・190合併号，2023年3月の「脚注37」を再掲する。］

ディーター・ヴィスリチェニー（Dieter Wisliceny）（1911年～1948年）。1933年にナチス党（NSDAP）（国家社会主義ドイツ労働者党）に入党し，1934年に親衛隊に入隊（親衛隊は，アドルフ・ヒトラーおよびナチス党の指揮下にあった準軍事組織であるが，その後ドイツ占領下の全欧州に展開）。1940年に親衛隊大尉に昇進。1939年からアドルフ・アイヒマンの下で国家保安本部（RSHA）ⅣB4課［通称ユダヤ人課］に勤務。

アドルフ・アイヒマンの推薦により，1940年9月，ドイツ代表団とともに国家保安本部（Reichssicherheitshauptamt der SS：RSHA）の「アイヒマン課」［ユダヤ人課］を代表してブラチスラバ（スロバキア）に赴き，スロバキア政府で「ユダヤ問題の専門顧問官」として勤務（1940年～1943年）。1940年9月，ヴィスリチェニーはユダヤ人センター（ドイツ語ではJudenrath）の設立を提案し，スロバキア

言によりユダヤ人問題を解決するための機関が設置された。すなわち，スロバキアでは中央経済局（Ústredný hospodárský úrad）が，またルーマニアではユダヤ人問題解決委員会が設置され，それに加えて，すべてのユダヤ人が登録を義務づけられた団体（いわゆるユダヤ人評議会［Judenrat］）が設置された（スロバキアの場合はユダヤ人センター（Ústredňa Židov, Jewish Centre））[8]。

ユダヤ人問題の「解決」に関連して，ナチ

のすべてのユダヤ人にたいしてそこへの登録を義務づけた。さらに，アウグスティン・モラーヴェク（Augustín Morávek）［スロバキア初代中央経済局長］を補佐して，アーリア化の準備・計画立案に当たった。1941 年 7 月，ヴィスリチェニーはスロバキアの政治家代表団を率いてシレジアを訪れ，ユダヤ人労働収容所（絶滅収容所ではない）を現地視察した。この視察によって，スロバキア内務省やフリンカ警護団の代表は，収容所でのユダヤ人の暮らしぶりや重労働に耐えうる期間がどれだけかを把握できた。

1942 年には，ヴィスリチェニーは，スロバキア側と共同でユダヤ人の強制移送を組織した。ラビのハイム・ミハエル・ドヴ・ヴァイスマンドル師（Rabbi Chaim Michael Dov Weissmandl）によると，アイヒマンの代理としてヴィスリチェニーは，ヴァイスマンドル師および福祉活動家でレジスタンスの活動家でもあったギジ・フライシュマン（Gisi Fleischmann）と交渉して，アウシュヴィッツ強制収容所へのスロバキアのユダヤ人の強制移送を停止させようとした。要求された金額の一部を支払うと，強制移送が停止された。かくて，ヴァイスマンドル師とフライシュマンの二人は，ヴィスリチェニーに賄賂を掴（つか）ませれば，国外移送を停止できると考えたのであるが，実を言えば，スロバキア当局は，8 月から 9 月までの約 6 週間，移送列車の手配ができなかっただけである。1 本の移送列車に 1000 人のユダヤ人を乗せなければならないことがネックになったのである。医師，薬剤師，エンジニア，アーリア化された企業の従業員，キリスト教改宗者など，社会的に必要とされていたユダヤ人がいたために，スロバキア当局は 1000 人のユダヤ人を速やかにかき集めることができなかった。

1942 年の 3 月から 7 月にかけて，ユダヤ人 5 万 5000 人が強制移送された。1942 年 9 月に 2 本の移送列車が出発し，1942 年 10 月 20 日には最後の移送列車が出発した。当時，スロバキア政府は，強制移送が終了したわけではない，ただ中断されただけだと言った。1944 年 9 月になると，アロイス・ブルンナーの指揮の下で，新たな移送が遂行された。

このころヴィスリチェニーはもう一つ別の強制移送計画を作成した。遅くとも 1942 年 8 月には，ベルリンにいたアイヒマンから，強制移送されたユダヤ人を殺害するようにとの指示があった。前述したように，1942 年 9 月から 10 月にかけて，最後の 3 本の強制移送列車がスロバキアを出発した。1942 年 9 月，ヴィスリチェニーは，『国境通信』誌の主筆フリッツ・フィアラ（Fritz Fiala）と一緒に占領下のポーランドに赴き，そこでスロバキアから移送されたユダヤ人数人と面談している。これは，ユダヤ人の殺害がフェイク・ニュースであるとするドイツ側の主張を証明するためのプロパガンダであった。フィアラは，ポーランド訪問記（フィアラ・レポート）を執筆した。その訪問記は，スロバキアだけでなく，ハンガリー，フランスなどでも出版された。

この強制移送の終了後，ヴィスリチェニーはギリシアに赴任して，1944 年にはハンガリーで組織的な強制移送に関与し，顧問官としてスロバキアに戻ることはなかった。ニュルンベルク裁判の重要証人であったヴィスリチェニーはチェコスロバキアに護送され，ブラチスラバで戦争犯罪の罪で裁判にかけられ，1948 年，絞首刑に処せられた。

(7) グスタフ・リヒター（Gustav Richter）（1912 年～1997 年）。親衛隊少佐，ユダヤ人問題にかんするドイツ人顧問官としてルーマニアに駐在（1941 年 4 月～1944 年 8 月）。［国家保安本部（RSHA）ⅣB4 課長アイヒマンの副官。］

(8) より詳しくは，以下を参照。*Holokaust na Slovensku 8. Ústredňa Židov (1940–1944). Dokumenty,* [The Holocaust in Slovakia 8. The Jewish Centre (1940–1944). Documents,] Katarína Hradská (ed.), Bratislava: Dokumentačné stredisko holokaustu; [Holocaust Documentation Centre;] Zvolen: Klemo, 2008.

ス・ドイツがこの三ヶ国との協議で最初に提起した問題は，ユダヤ人マークの着用であった。ドイツ国内では，この措置はすでに1941年9月に実施されていた。ナチス・ドイツの領土になったボヘミア・モラヴィア保護領とオストマルク（旧オーストリア）に居住する［三ヶ国の国籍のいずれか一つを保有する］ユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用について，第三帝国は外交ルートを通じて，各国に許可を求めた。すでにユダヤ人マークを着用させていたクロアチア，ならびに1941年9月9日にユダヤ法が施行され，1941年政令第198号によってユダヤ人マークを着用させていたスロバキアは，ドイツ提案に前向きに対応した。また，ルーマニアは，［三ヶ国の中では］最初に第三帝国の領土に居住する［自国籍の］ユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用に同意した（1941年）。

1941年の秋になると，ドイツのユダヤ人が，そしてそれに続いてチェコのユダヤ人が，さらにはその他のユダヤ人が，ナチス・ドイツの管理する強制収容所やゲットーに強制移送されるようになった。したがって，ドイツが外交ルートを通じてユダヤ人マークの着用について同意を取り付けた国から順に協議して，第三帝国（ボヘミア・モラビア保護領とオストマルクを含む）から強制移送されるドイツのユダヤ人と一緒に，各国に居住するユダヤ人を「東方」に「移動」させる（つまり強制移送する）ことに同意するかどうかを尋ねたのは，「理の当然」であった。ドイツ側は，大使館を通じて各国の見解を集めた[9]。スロバキア，クロアチア，ルーマニアは自国のユ

(9) すでに1941年10月28日付のナチス外務省のフランツ・ラーデマッハー（Franz Rademacher）が発信した国務長官エルンスト・フォン・ヴァイツゼッカー（Ernst Freiherr von Weizsäcker）宛の文書には，ドイツから強制移送されるユダヤ人の中にスロバキアとクロアチアのユダヤ人を含める必要があるかどうかを国家保安本部（RSHA）に電話で照会したとある。［これにたいして］フォン・ヴァイツゼッカーは，儀礼上，在ブラチスラバ大使館［スロバキア］および在ザグレブ大使館［クロアチア］を通じて［当該国と］協議されたいと勧告した。

ナチス外務省次官マルティン・フランツ・ユリウス・ルター（Martin Franz Julius Luther）は，1941年11月17日に，ブラチスラバ駐在ドイツ大使館に書簡を送り，スロバキア政府がドイツ領（ボヘミア・モラビア保護領とオストマルク［旧オーストリア］を含む）からスロバキア国籍のユダヤ人も一緒に「東方のゲットー」に移送することに同意するか，それともユダヤ人を［自国に］引き受けるかを問い質すようにと伝えた。その結果は以下のとおりである。

> 1941年11月21日，ドイツ大使館顧問リンゲルマン博士は，ドイツ政府が帝国ならびにボヘミア・モラビア保護領から［自国籍の］全ユダヤ人を可及的速やかに東方に強制移送することにした旨，現地事務所に通告した。とくに同保護領にいるスロバキア国籍の多数のユダヤ人について，スロバキア政府としては，第三帝国に居住する他のユダヤ人と一緒に東方へ移送したいのか，それともこれらのユダヤ人をスロバキアに帰還させたいのか，とドイツ政府は問い，二つに一つの即答を求めた。第三帝国政府は，可能な限り速やかに強制移送を実行に移したかったので，スロバキア政府からの即答を求めたのである。（Eduard Nižňanský (ed.), *Holokaust na Slovensku 4. Dokumenty nemeckej proveniencie 1939–1945*, [The Holocaust in Slovakia 4. Documents of German Provenance 1939–1945,] Bratislava: Nadácia M. Šimečka, 2003, p. 107–110.）

以下では，上に登場したラーデマッハーとフォン・ヴァイツゼッカー，ルターの三人について簡単に述べておく。フランツ・ラーデマッハー（1906年～1973年）は，ナチス・ドイツの外交官，国務次官，外務省ドイツ局DⅢ課（いわゆる「ユダヤ人課」）の課長（1940年3月～1943年4月）。後述のマルティン・

ダヤ人の強制移送に同意した[10]。スロバキアの関心事は，ユダヤ人の請求可能な財産だけであった[11]。

以下では，各国との間でなされた外交交渉について分析する。

ルターは上司。［ユダヤ人のマダガスカル島への移住にかんする計画立案者。］

エルンスト・フライヘル・フォン・ヴァイツゼッカー（1882 年～1951 年）は，ドイツの外交官。国家社会主義ドイツ労働者党（ナチス）の党員で親衛隊員。1938 年～1943 年に，ドイツ外務省国務長官（外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップの代理・後任）。

マルティン・ルター（1895 年～1945 年）は，外務省事務次官兼ドイツ部長（1940～1943 年）。外務省と親衛隊との連絡調整を担当。アイヒマンと協力して，ホロコーストを企画立案した主要人物の一人。1942 年 1 月のヴァンゼー会議に外務省を代表して出席し，ドイツ国内からだけでなく，ナチス占領下のヨーロッパからの強制移送の技術的側面を担当。

（10）ブカレスト駐在ドイツ大使マンフレット・フライヘル・フォン・キリンガーがベルリンに送った 1941 年 11 月 13 日付の電報は，以下のとおりである。（フォン・キリンガー（1886 年～1944 年）は第二代スロバキア駐在ドイツ大使（1940 年 8 月～1941 年 1 月），その後ルーマニア大使として赴任（1941 年～1944 年）。脚注 79 参照。）

アントネスク氏の …… 説明によれば，ルーマニア政府は，ルーマニア国籍のユダヤ人をドイツ国籍のユダヤ人と一緒に東方のゲットーに移送することについては，我が国に委ねているとのことである。ルーマニア政府は，自国籍のユダヤ人に再びルーマニアの地を踏ませようとは，まったく考えてもいない。（エルサレム・ヤド・ヴァシェム文書館（Yad Vashem Archiv, Jerusalem）蔵, R1 “Auswärtiges Amt”, Inland II g 52/5 (Microfilm JM 2215)。）

1941 年 11 月 20 日付のアグラム（ザグレブ）駐在ドイツ大使ジークフリート・カシェ（Siegfried Kasche）発ベルリン宛の電報は，以下のとおり。（カシェ（1903 年～1947 年）は，突撃隊大将，クロアチア（ザグレブ）駐在ドイツ大使（1941 年～1945 年 5 月）。）

クロアチア政府は，ドイツに居住するクロアチア国籍のユダヤ人［の取扱に］にかんする［ドイツ政府の］配慮に感謝している。同国政府は，これらのユダヤ人をドイツから東方へ追放してくれるのは有難いことだと思っている。（エルサレム・ヤド・ヴァシェム文書館蔵, R1 “Auswärtiges Amt”, Inland II g 52/5 (Microfilm JM 2215)。）

（11）スロバキア国籍のユダヤ人をナチス・ドイツから強制移送することにかんしてハンス・エラルト・ルディン（Hanns Elard Ludin）がベルリンに送った 1941 年 12 月 4 日付の電報は，以下のとおりである。

スロバキア政府の回答は，自国籍のユダヤ人を東方のゲットーに強制移送することについては原則的に同意するものの，これらのユダヤ人の動産ならびに不動産にたいするスロバキアの正当な請求権は，東方への強制移送によっても何ら脅かされるべきではないことを強調しておかなければならないというものである。スロバキア政府の見解によれば，これらのユダヤ人の圧倒的大多数は，1938 年の出来事［ミュンヘン会談］の後にスロバキア自治政府の領土から［ボヘミア・モラビア］保護領に移住したときに，不法に財産を持ち出した輩（やから）である。スロバキア政府は，第三帝国に居住するスロバキア国籍のユダヤ人が保有する財産の価値を仔細に登録することが可能かどうかを照会してきている。それが可能になるとすれば，その登録はユダヤ人が強制移送された後に，当該財産の返還交渉をするときの根拠となるからである。このほかにも，スロバキア政府は次のようなことについてドイツに照会している。すなわちその情報［財産登録］に基づいてユダヤ人財産の返還を請け合うつもりかどうか，もしくは［スロバキア政府の］国家経済のためにユダヤ人財産を利用させてくれるかどうか，そしてユダヤ人財産の引渡にかんする詳細を協議する用意があるかどうかを尋ねてきている。小職は，ユダヤ人の財産にたいする正当な請求権は可能な限り認められるとすでに説明したところであるが，スロバキアからの質問に細部に亘ってどのように回答す

2．スロバキア

すでに述べたように，スロバキアは，ナチス・ドイツの領土内に居住するスロバキア国籍のユダヤ人にユダヤ人マークを着用させ，「東方」に強制移送することに同意していた。

独立国であるスロバキアの領土からの強制移送にかんするホロコースト関連の既存文献によれば，1941年10月にスロバキアを代表する要人が参謀本部にヒトラーを訪問したことが重要とされている(12)。ヴォイテフ・トゥカ（Vojtech Tuka）(補注1)とブラチスラバ駐在ドイツ大使ハンス・エラルト・ルディン（Hanns Elard Ludin）との間での取り交わされた1941年12月2日の合意はその訪問の結果であると解釈され，これにより，スロバキア側は，第三帝国に居住するスロバキア国籍のユダヤ人を「東方」へと強制移送することに同意したとされている(13)。しかし，網を広げて1941年後半の状況を分析してみれば，この結論には疑問が生ずる。これまでに見てきたように，ナチス・ドイツは，国の代表がヒトラーを訪問したかどうかにかかわらず，各国にたいして二つの措置（ユダヤ人マークの着用と東方への強制移送）の順次遂行を迫っていたからである。ホロコーストはナチスの外交政策の一つであって，以前からドイツはこの問題の解決をそれぞれの国に要請していた[訳注1]。

スロバキア側が，第三帝国の領土からスロバキア国籍のユダヤ人を強制移送することに同意したからには，その次の段階が，スロバキアの領土そのものからの［全ユダヤ人の］強制移送であることは，当然と言えば当然で

るにはどうすればよいか，指示を仰ぐ次第である。(*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 111-112.)

なお，ハンス・エラルト・ルディン（1905年～1947年）はドイツの外交官。スロバキア共和国ブラチスラバ駐在ドイツ大使（1941年～1945年）。第二次世界大戦後，国民法廷で有罪判決，1947年処刑。

(12) より詳しくは以下を参照。Hradská, ref. 6, p. 38［以下ref.は脚注の謂］; Hradská, Katarína, "Jozef Tiso v Hitlerovom hlavnom stane a na Ukrajine roku 1941 vo svetle nemeckých dokumentov," ["Jozef Tiso at Hitler's Headquarters and in Ukraine in 1941 in the Light of German Documents,"] in: *Historický časopis*, 2003, year 51, no. 4, p. 685-694; Kamenc, Ivan, *Po stopách tragédie*. [On the Trail of Tragedy,] Bratislava: Archa, 1991, p. 155.

(補注1) ヴォイテフ・「ベーラ・」トゥカ（1880年～1946年）。1939年～1943年，フリンカ・スロバキア人民党副総裁（急進派リーダー）。首相（1939年10月26日～1940年9月4日），外務大臣（1940年（ザルツブルク会談以降）～1944年）。ナチス・ドイツの協力者。スロバキアのユダヤ人をドイツ占領下のポーランドのナチス強制収容所に強制移送したときの中心人物の一人。第二次世界大戦後，処刑。

(13) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 111-112.

［訳注1］スロバキア政府は，ヒトラーと会談する前にすでにユダヤ人の強制移送を「国是」として定めていた。その方針がドイツの主導によるか，スロバキアがナチスの「要請」に先んじて「自主的」に定めていたかは，以下で述べるように現在なお不明である。ここでは，著者はドイツからの「要請」が「以前から」あったことを事実として確認するに留めていて，スロバキアからの強制移送についてのドイツ主導説を主張するものではないことに留意したい。

この直後の本文では，ヴァンゼー会議（1942年1月）ですでにスロバキアからのユダヤ人移送が前提されていたことが指摘されている。このことからもドイツからの「要請」は1941年10月（スロバキア要人とヒトラーの会談）よりも以前にあったと執筆者は主張している。

あった。いろいろなことがあっても，ドイツ側はこの移送が問題になるはずがないと見ていた。1942 年 1 月のヴァンゼー会議でスロバキアにかんしては自信満々であったことを示すメモがすべてを物語っている[14]。

手を広げて調べてはみたが，1942 年初頭の強制移送にかんするドイツとスロバキアとの協議については，まだ十分な情報が得られていない。今ある文書からでは，ドイツ側とスロバキア側のどちらが強制移送を主導したかについては確たることは言えない。

スロバキア主導説に立つ歴史学者ラディスラフ・リプシャー[15] によれば，第三帝国の領土内で作業に当たるスロバキア人労働者の増員を求めたドイツ側が，それについてイジドール・コソ（スロバキア首相官邸高官）と合意したことを受けて[16]，スロバキア政府の全権代表はドイツ帝国労働省代表のグスタフ・ザーゲル（Gustav Sager）に，スロバキア人の代りとしてユダヤ人 2 万人を提供することにした。戦後になってから［ドイツ派遣のユダヤ人問題］顧問官ディーター・ヴィスリチェニーは，これがスロバキア側の申し出であることに間違いないと証言した[17]。

（14）『ドイツ外交政策文書』（*Akten zur deutschen auswärtigen Politik*，以下，“ADAP” と言う。），Serie E, Bd. 1, p. 272 (document 150). には次のように書かれている。

> スロバキアとクロアチアでは，この点にかんする最重要の核心的問題は解決済みであり，事態はさほど難しくはない。

より詳しくは，たとえば Roseman, ref. 5 を参照。

（15）Lipscher, Ladislav, *Židia v slovenskom štáte 1939–1945*, [The Jews in the Slovak State 1939–1945,] Bratislava: Print-servis, 1992, p. 114–115. G. ファトラノヴァー（G. Fatranová）や Y. バウエル（Y. Bauer）など，多くの歴史学者はこの見解に立っている。

（16）戦後，ブラチスラバの国民法廷（1948 年第 13 号法廷）で，イジドール・コソ（Izidor Koso）（1896 年～1978 年）は，このときのことについて自分には責任がないと否定している。1947 年 9 月 22 日の供述は，次のとおりである。

> 1942 年 1 月末に，私が単独か，もしくは他の者と共謀して，ヴィスリチェニーと合意し，ユダヤ人市民 2 万人をドイツに派遣して働かせたということは，事実ではありません。私がこの合意について知ったのは，尋問のとき（戦後という意味 —— ニジニャンスキー）だったからです。同じく，私がすべてのユダヤ人の強制移送にかんする枠組協定の締結に参加したとか，それを私が主導したというのも事実ではありません。この枠組協定はベルリンでトゥカが単独で締結したものであり，私の記憶では，強制移送される者一人につき 500 ライヒスマルクが支払われることを初めて知ったのは，政府の会議のときです。2 月末か 3 月初めに，トゥカは私に，ユダヤ人をルブリン県のミンスク地方に再定住させて，そこに強制収容することになっていると言いました。（ブラチスラバ国立文書館（State Archives Bratislava：SAB），f. Ľudový súd (People’s Court) Bratislava, Tnľud 43/46–58.）

（17）ヴィスリチェニーの証言が正しいことはユダヤ人センターの代表をしていたティボール・コヴァーチ（Tibor Kováč）とアンドレイ・スタイナー（Andrej Steiner）によって，第二次世界大戦後に確認された。しかし，ヴィスリチェニーがスタイナーに作成を約束したとされる，スロバキア政府代表との強制移送にかんする会談の文書は，作成されていない。ヴィスリチェニーがこの情報［スロバキアによるユダヤ人の供出］を提供したのは 1942 年なのか，あるいはスロバキアを離任する前の 1943 年になってからなのかについては，［ユダヤ人センターの］元代表の供述から判断することは困難である。1942 年秋には，スロバキアから移送されたユダヤ人の大部分がもはや生存していないことを知っていたヴィスリチェニーの側からすれば，この話は，ユダヤ人センターの代表にたいして慎重に練ら

ヴィスリチェニーの供述によると，これを知ったアドルフ・アイヒマンは彼をベルリンに召還し，ヒムラーの命令により，当該ユダヤ人は国家保安本部（Reichssichererheitshauptamt der SS：RSHA）の管理下にある収容所に移送される手はずになっていると言ったとのことである。他方で，ヴィスリチェニーはスロバキア側にたいして，ドイツとしては，提供された数だけのユダヤ人を労働者としてありがたくお受けすると伝えなければならなかった[18]。ドイツが強制移送の責任をスロバキア側に転嫁しようと努めたのは自然の成り行きであり，その逆もまた然(しか)りである。

このことは，ドイツ大使ルディンの証言によっても証明することができる。戦後になると，グスタフ・ザーゲルは，そのような話をルディンに言った覚えはないと述べたが，ルディンの証言はこうである。

> そのような提案［ユダヤ人の供出］を主導したのはスロバキアだったと思います。ザーゲルはユダヤ人問題には無関係でしたし，私の知る限り，ドイツの事務方がスロバキアに，そのような要求をしたことはありません。…… 強制移送が始まったとき，スロバキア当局から強制移送にたいする反対の声は上がらなかったと記憶しています。[19]

外務省公文書館と連邦公文書館（いずれもベルリン）での広範な調査にもかかわらず，この問題［ユダヤ人の供出を主導したのはスロバキアかドイツかという問題］を解決するような文書はまだ見つかっていない。当時の機構上，ザーゲルはユダヤ人問題を所管しない帝国労働省の職員であったために，スロバキアからの申入があれば，ベルリンに報告したはずである。この問題をベルリンの外務省に知らせたのは，帝国労働省に違いない。ただし，そのことを伝える文書は現存しない。この時期以降の外務省の郵便物受付簿にも，そのような書簡の到着は記載されていない。これも重要である[20]。ザーゲルが1942年の様々な時期に労働問題にかんする情報を送っていたはずにもかかわらず，ベルリンの外務省政治文書館（PAAA）に収蔵されているブラチスラバ駐在［ドイツ］大使館が発信した公文書のコレクションの中には，ザーゲルからのそのような報告文書は見当たらない。また，ベルリンの連邦公文書館に収蔵されている帝国労働省発の公文書コレクションの中には，労働力にかんする協議についての「ザーゲル発信」という項目もない。

ドイツ側の資料を紐解いてみると，1942年

れたマヌーバーだったということは大いにありうる。SAB, f. Ľudový súd Bratislava, trial of I. Koso Tnľud 43/46-7, 43/36-11.［受け入れたユダヤ人がすでに強制収容所で殺害されたことを知っていたはずのヴィスリチェニーは，まだ生存していると見せかけるために，「労働者として受け入れた。」とユダヤ人センターの幹部に言ったとも考えられる。そうだとすれば，ヴィスリチェニーの「情報提供」はマヌーバーと言うべきであろう。］

(18) SNA, f. Národný súd, Dr. Anton Vašek, 17/46-72.

(19) SAB, f. Ľudový súd Bratislava, T. J. Gašpar 14/48, carton 13.

(20) 外務省政治文書館（Politisches Archiv des Auswärtigen Amtes (以下, “PAAA” と言う。)), Journalbücher Inland A-B. Juden を参照。

８月に外務省次官マルティン・ルター[21]は，ドイツからスロバキア国籍などのユダヤ人を強制移送したことによって，労働力不足が生じたため，ドイツ側がスロバキア政府にたいしてユダヤ人労働者２万人の派遣を要請したと書いてあった[22]。1942年２月20日にスロバキア駐在大使ハンス・ルディンがベルリンに送った電報には，「スロバキア側はこの提案に乗り気であり，準備に着手することができる。」とある[23]。その後，ドイツ側は喜んで全ユダヤ人を引き受けた[24]。ただし，このことにかんするドイツの外交文書は1942年２月末までにはスロバキアに届いていたはずなのに，誰一人として，それを発見した歴史学者はいない。

現存する資料には，矛盾した言い回しをしているものもある。1942年３月26日の国務院［実質的な上院議会］でのアレクサンデル・マッハ（Alexander Mach）[補注2]の次の発言がそうである。

（21）ルターについては脚注９参照。

（22）1942年２月16日付のルターが発信したルディン宛の文書を以下に引用する。

ヨーロッパのユダヤ人問題の最終解決のための措置にかんして，ドイツ政府は，２万人の若くて壮健なスロバキアのユダヤ人を引き取り，労働力の逼迫が続いている東方に移送する準備を整えている。このことを御地の政府に伝えられたい。スロバキア政府から原則的な同意があり次第，ユダヤ人問題顧問官が口頭でその詳細を明らかにする。（*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 113-114.）

（23）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 113-114.

（24）以下は，*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, s. 207-212による。

このようにして東方に移送されたユダヤ人（第三帝国に居住する外国籍ユダヤ人――ニジニャンスキー）をもってしても，その人数は，現地の労働力需要を満たすには十分ではなかった。そこで，国家保安本部（RSHA）は，親衛隊全国指導者［ヒムラー］の指示により外務省に働きかけて，若くて壮健なスロバキアのユダヤ人２万人にたいする東方への強制移送をスロバキア政府に要請することになった。プレスブルク［ブラチスラバのドイツ名］駐在ドイツ公使館には，第DⅢ874号文書に基づく対応が指示された。この指示書には，国務長官，国務次官［マルティン・ルター］，政治部長，第４政治部長が署名している。プレスブルク駐在ドイツ公使館は第DⅢ1002号文書により，スロバキア政府がこの提案に乗り気であり，その準備に着手できると報告した。スロバキア政府によるこの喜ばしい承認を受けた親衛隊全国指導者［ヒムラー］は，残っているスロバキアのユダヤ人も東方に移送し，スロバキアをユダヤ人一掃地域としてはどうかと提案した。公使館には，DⅢ1559号文書によってしかるべき指示が下りた。その指示の草案には国務長官が署名し，発出後に外務大臣［ヨアヒム・フォン・リッベントロップ］と国務長官［マルティン・ルター］に通知された。

（補注２）アレクサンデル・マッハ（1902年～1980年）。フリンカ・スロバキア人民党の極右勢力。マッハは，ミュンヘン協定とそれに続くスロバキア民族主義が高揚した1938年に，ヴォイテフ・トゥカおよびフェルディナンド・ドゥルチャンスキーの側近として，表舞台に登場した。スロバキア宣伝局長（1938年～1939年），スロバキア議会議員（1938年～1945年）。フリンカ・スロバキア人民党の準軍事組織であるフリンカ警固団の重鎮（1939年～1944年には，その総司令官）。フリンカ警固団は，ユダヤ人などの「スロバキアの敵」にたいする組織暴力に当たった。1940年７月以降，内務大臣を兼任し，スロバキアにユダヤ人労働収容所を設置するとともに，1942年には，ユダヤ人の強制移送の責任者を務めた。第二次世界大戦後，禁固30年。［フリンカ警固団（Hlinkova garda: HG）は，ユダヤ人の強制移送のときに警備を担当するなどした。］

…… それは我が方から出た話であり，ドイツ側からではありません。…… このユダヤ人問題については，我々はドイツに助けられたのです。我々はユダヤ人を排除したかったのです。総統官邸に滞在していたときに，最も大事な一歩を踏み出すことになりました。外務大臣同席のもとで，ヒムラーと話す機会がありました。ユダヤ人はどれだけいるかと聞かれ，9万人いると答えました。二人は，そのユダヤ人が欲しいと言いました。…… こうしてあの構想が誕生しました。ドイツ軍と手を組んでそうしようとしたのですから，できませんと言うわけにはゆきませんでした。…… 我々には，どんなに代償を払っても，これを止めるつもりはなかったのです。(25)

しかし，マッハのこの発言はあまりにも漠としているので，一点の曇りもなく，［強制移送にかんしては］スロバキア側が主導して，スロバキア側がまずユダヤ人を労働力として提供し，その後には，それ以外の人々をすべて提供したと断定することはできない。その一方で強制移送にかんしては，ドイツ側がスロバキアの政治家に圧力をかける必要はなかった。このことは明らかであり，大使ルディンがすでに1942年4月に述べているとおりである(26)。

その後ユダヤ人家族が強制移送されたが，そのことについて，ディーター・ヴィスリチェニーは戦後になってから次のように証言している（1947年9月25日）。

親愛なる友人の皆さん。我が国の歴史をご存知であれば，我々にとってユダヤ人問題はユダヤ人にかんする問題だけではなく，国家的問題でもあることをご存知だと思います。彼（ヴォイテフ・トゥカ ―― ニジニャンスキー）は，スロバキアの著述家の名前を多数挙げ，「我が国のユダヤ人は外国生まれの国家イデオロギーを担うハンガリー人（マジャール人）である。」と言いました。トゥカがスロバキアからユダヤ人を追い出したいと考える理由は，そこにあります。政府のトップにいたこの人は，すべてのユダヤ人をドイツに移送してもよいかどうかを，ベルリンに照会して欲しいと私に頼みました。私はトゥカに，ベルリンにいる私の上司アイヒマン(補注3)に尋ねてみ

（25）*Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátne rada o židovskej otázke 1939–1945. Dokumenty,* [The Holocaust in Slovakia 2. The President, Government, Parliament of the Slovak Republic and State Council on the Jewish Question 1939–1945,] ed. by Eduard Nižňanský and Ivan Kamenec, Bratislava: NMŠ a ŽNO, 2003, p. 153–178.

（26）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 127–128.

（補注3）アドルフ・アイヒマン（Adolf Eichmann）（1906年～1962年）。ドイツ系オーストリア人，親衛隊中佐。ホロコースト（ナチスの言う「ユダヤ人問題の最終解決」）の首謀者の一人。1934年，希望により親衛隊国家保安局（SD）に異動し，ユダヤ人課（第Ⅱ112課）に配属。1938年8月以降，ユダヤ人移民ウィーン中央事務所に勤務。このとき，アイヒマンはオーストリアからの強制移住を組織し，成果を挙げた。1938年8月から1939年5月までに，いわゆる「オストマルク」（旧オーストリア）からユダヤ人約9万人を排除したから

ようと言いました。私はベルリンで，まずは口頭で，その後には書面でその件を上申しました。最初，アイヒマンは，ポーランドにはこれらの人々を収容する場所がない，だめだと言いました。

トゥカの申し出からおそらく14日後に，アイヒマンは私をベルリンに召還し，ヒムラーはスロバキアからすべてのユダヤ人をドイツに強制移送することに同意してはいるが，それには二つの条件があると言いました。第一の条件は，スロバキアがユダヤ人の市民権を剥奪すること，第二の条件は，スロバキアがユダヤ人一人ずつに掛かる再定住費を支払うことでした。この決定を携えて，私は即刻スロバキアに戻り，トゥカに報告しました。トゥカはコソ博士［イジドール・コソ］を呼んでいました。トゥカは二つの条件を飲むと言いましたが，そのことを公式の覚書に書き込むよう求めました。スロバキア側の二人は政府のために根拠文書が欲しかったのです[27]。…… アイヒマンは外務省を通じて上記の条件を公式の外交覚書に書き込みました[28]。そ

である。1939年9月，国家保安本部（RSHA）に異動し，ヨーロッパにおけるユダヤ人の強制移送を組織的に実行するⅣB4課［いわゆる「ユダヤ人課」］の課長に就任。早くも1939年には，［ポーランド南東部の］ニスコへのユダヤ人の強制移送を組織した。その後，ⅣB4課の課員と謀って，スロバキア，フランス，西ヨーロッパ，ギリシア，イタリア，ハンガリーから強制収容所（アウシュヴィッツ，トレブリンカ，ソビボルなど）への強制移送を組織的に実行。このときの企画立案担当の主要人物。戦後，潜伏するも，アルゼンチンでモサド［イスラエルの情報機関］に拉致され，1961年にイスラエルで裁判を受け，処刑された。

（27）ユダヤ人センターのいわゆる作業部会（ワーキング・グループ）（Pracovná skupina［スロバキア語］，Nebenregierung［ドイツ語］）［反独非合法組織］の代表者の一人であった証人アンドレイ・スタイナー（Andrej Steiner）は，イジドール・コソ（Isidor Koso）の裁判でもこの問題について次のように証言している。

> …… ドイツ政府関係者の指示によりヴィスリチェニーは，マッハとコソに，ドイツで働く青年男女約1万5000人を供出するように依頼しました。マッハとコソはヴィスリチェニーに，人は提供しますが，ただし，ユダヤ人ですと答えたました。こうしてユダヤの若者1万5000人が強制移送されることになりました。ヴィスリチェニーは，マッハとコソとの協議録を私に見せてくれました。それによると，トゥカも同意していました。ヴィスリチェニーは，スロバキア政府との協議録の写しを私に作成させたいと考えていましたが，その後，ヴィスリチェニーはユダヤ人の強制移送を企画立案するためにハンガリーに赴任したために，写しをとることはできませんでした。
> …… トゥカ，マッハ，コソの三人は，ユダヤ人の家族をバラバラにしてはならないと言って，家族を丸ごとドイツに移送することを提案しました。トゥカはそうすることの宗教的な論拠として，家族を離散させるのはキリスト教の教えに反する，と言ったそうです。ヴィスリチェニーがこの話を私にしたとき，皮肉な笑みを浮かべ，毎日教会に通っている信心深いトゥカは，このようなキリスト教的な包容力のある提案が好きなのだ，と解説しました。（SAB, f. Ľudový súd Bratislava, trial of I. Koso, 43/46-7, testimony of A. Steiner 1 April 1946.）

（28）今のところ，このドイツ側の覚書を見つけた歴史学者は一人もいない。1942年8月21日付のナチス外務省次官マルティン・ルターの報告書にも次のような記載がある。

> スロバキア政府が強く（ユダヤ人労働者を受け入れる旨の1942年2月20日付の［ドイツ側の］申し出にたいするスロバキア側の反応はこうであった――ニジニャンスキー）同意したことにより，親衛隊全国指導者［ヒムラー］は，まだ

の後，政府はこの件を決定しました。[29]

ヴィスリチェニーのこの供述は，1942年3月3日の会議で強制移送について政府に報告したヴォイテフ・トゥカの発言やアレクサンデル・マッハの発言と符合していることが確認できる[30]。さらにまた，1942年3月6日の国務院でトゥカが，強制移送された人々にかんする支払について次のように発言したという情報もある。

> …… ユダヤ人問題は，ウクライナへの強制移送によって漸次解決されるべきものである。ユダヤ人には行き先が通知されている。ユダヤ人はわが国の領土を離れたとき，スロバキア共和国の国民ではなくなる。［移送される者は］14日分の食料を携行することができる。スロバキア共和国には，ユダヤ人一人につき500ライヒスマルクを支払う義務がある。ユダヤ人の強制移送の開始は3月であり，終了は1942年8月である。ただし，我が方としては，キリスト教徒としての洗礼を受けたユダヤ人は，彼らのための聖職者がいて教会を建てた新天地の，［ユダヤ人の収容地とは］別の集落に居住させるという条件を設けている。[31]

1942年4月10日，ブラチスラバでトゥカとナチス・ドイツの代表との会談が実施されたが[32]，そのときの前提となったのは，「労働するユダヤ人青年」の強制移送が終了した後には，ユダヤ人市民を強制移送するという構想であった。

それにかんする公文書には，公文書の文体で簡潔に次のように書かれている。

> 首相ヴォイテフ・トゥカは，本日，帝国首相兼総統アドルフ・ヒトラーからヨーロッパのユダヤ人問題の解決を直接命じられた帝国元帥ゲーリンクの代理で

残っているスロバキアのユダヤ人を東方に強制移送し，スロバキアをユダヤ人が一掃された国にすることを提案した。大使館は第DⅢ1559号第2付属文書によりしかるべき指示を受けた。国務長官が署名した指示は，［大使館に］送付後，帝国外務省および国務次官（政治部）に逐次，連絡事項として通知された。（*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 211.）

(29) SAB, f. Ľudový súd Bratislava, trial of I. Koso, Tnľud 43/46-58. Testimony of D. Wisliceny 25 Sept 1947.

(30) SNA Bratislava, f. Národný súd (National Court), Gejza Fritz Tnľud 74/45-27-30. 以下は，1942年3月3日に開催された第Ⅱ/84回政府会議の抄録からの引用である。

> ［ドイツ］帝国政府の代表は，ユダヤ人の市民権剥奪を条件に，全ユダヤ人を受け入れると表明している旨，［スロバキア］首相が発表した。内務大臣（アレクサンデル・マッハ――ニジニャンスキー）は，ユダヤ人の強制移送を準備するにあって，政府が考慮すべき詳細を報告書にして提出した。

ただし，それには，強制移送されたユダヤ人一人につき500ライヒスマルクの手数料のことは記載されていない。（*Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, p. 142も参照。）

(31) *Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, p. 146-148.

(32) ドイツ側から誰がスロバキアに来たのかについては，いまだに明確ではないが，公表された文献ではラインハルト・ハイドリヒ（Reinhard Heydrich）ということになっている。

ある，親衛隊全国指導者兼ドイツ警察長官ハインリッヒ・ヒムラー[補注4]の代理人と会談した。この会談では，スロバキアのユダヤ人の強制移送は計画のごく一部に過ぎないことが述べられた。ユダヤ人50万人がヨーロッパから東方へ移送されている。スロバキアは，ドイツ帝国がユダヤ人の排除を希望した最初の国である。同時に，フランス（占領地），オランダ，ベルギー，ボヘミア・モラビア保護領，ドイツ帝国の領土からもユダヤ人が排除される。スロバキアからのユダヤ人は，［ポーランド総督府］ルブリン県の数ヶ所に収容され，そこに永久に留まることになる。家族も一緒である。国際法および国内法におけるユダヤ人の地位は，ドイツ帝国の被保護人（Schutzbefohlene）とされる。キリスト教徒としての洗礼を受けたユダヤ人は別途移送され，別の土地に居住するものとする。（洗礼を受けたユダヤ人とは，ユダヤ法が受洗を認定したユダヤ人であり，かつ1941年9月10日以前に洗礼を受けた者である[33]。ごく最近になってから洗礼を受けたユダヤ人は，御都合主義的な理由で受洗された者であり，これ［洗礼を受けたユダヤ人］には該当しない）。ドイツ政府は，ユダヤ人を可能な限り人道的に扱っている。（1941年8月，大臣顧問官イジドール・コソは，地方政府，長老会，警察を独自に置くユダヤ人街を視察した[34]。）[35]

アドルフ・アイヒマン[36]も5月には強制移送の協議でスロバキアを訪問したが，プラハでラインハルト・ハイドリヒが暗殺されたため，協議と滞在は早々と打ち切られた[37]。［事件の発生は1942年5月27日，ハイドリヒの死亡は6月4日。］

継続的な強制移送へのナチス・ドイツの介入は，1942年6月から始まった。移送列車が予定どおりに1942年6月24日にルブリン県に到着しなかったことが，そのきっかけとなった。ナチス・ドイツの顧問官（複数）ならびに大使ルディンは，その翌日トゥカと面談した。このとき，ユダヤ人問題顧問官ヴィスリチェニーは強制移送の詳細を報告し，次のように述べた。

> ユダヤ作戦は最終段階に入っている。ユダヤ人5万2000人はすでに強制移送されたが[38]，まだ3万5000人が残って

（補注4）ハインリヒ・ルイトポルト・ヒムラー（Heinrich Luitpold Himmler）（1900年～1945年），国家社会主義ドイツ労働者党（National sozialistische Deutsche Arbeiterpartei：NSDAP（ナチス））の指導者，ナチス・ドイツの最高権力者の一人，ホロコーストの設計を主導。

（33）1941年法律第198号（いわゆるユダヤ法）。

（34）1941年4月のアッパー・シレジアの視察。たとえば，*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 87-90を参照。

（35）YVA Jerusalem, f. M 5/49.

（36）補注3参照。

（37）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 144-145.

（38）この数は過大である。1942年7月にはさらに4本の移送列車がスロバキアを出発したが，9月には2本，10月20日には最後の1本が出発した。合計で約5万8000人のユダヤ人が強制移送されたことになる。しかし，ヴィスリチェニーが発言した時点で強制移送されたのは，約5万人である。

いる[39]。そのためにユダヤ人の雇い主を呼び出さなければならない。雇い主は，当該ユダヤ人が余人をもっては替えがたいことを申告しなければならない。これにより，5月15日の法律[40]で保護されるユダヤ人の人数は，4000人ほどになると考えられる。これらのユダヤ人は有害分子の最たる者である。内務省第14局の局長[41]はともかくとして，第14局は運輸省と同様に非常によく働いてくれている。

この発言にたいするトゥカの弁は次のようであった。

昨日の政府の会議では，各省庁が発行した［ユダヤ人の］保護文書は内務省に報告し，内務省が書換更新を担当することで合意した[42]。トゥカもマッハも，この重要な仕事が終わるまでは休む暇（いとま）がない。

ヴィスリチェニーは，「正真正銘の石頭」[43]アウグスティン・モラーヴェク[補注5]（Augustín Morávek）を中央経済局の局長に留めるべきだと主張した。トゥカの質問に答えて，ヴィスリチェニーは，［内務省第14局長］アントン・ヴァシェックのことを八方美人の妥協主義者だから，身動きがとれず，彼では保護文書の書換更新はできないと言っている。大使ルディンは「ユダヤ人問題にたいする100％の解決」[44]，すなわちスロバキアからの全ユダヤ人の強制移送を勧告した。

1942年6月26日，ルディンはベルリンに次のように報告している。

スロバキアからのユダヤ人の追放は，現時点では行き詰まっている。教会の影響と役人への買収のせいで，おそらく3万5000人のユダヤ人が追放の必要なしという趣旨の書類を入手している。ユダヤ人の強制移送は，スロバキアの一般人

(39) この頃にはもう，スロバキアにいるユダヤ人は少なくなっていた。少なくとも5000人～6000人がハンガリーに逃亡し，約2000人はいわゆるアーリア人証明書を手に入れて，スロバキアに潜伏していた。

(40) この法律とは憲法（1942年法律第68号）のことである。これによって，ユダヤ人のスロバキアからの強制移送と市民権の剥奪が可能となったが，他方では例外規定も定められた。

(41) 内務省第14局長はアントン・ヴァシェック（Anton Vašek）。

(42) 以下は，1942年6月24日に開催された政府の会議の議事録からの引用である。

政府は，ユダヤ人の強制移送について憲法が定めた事項の施行にかんする法案を承認した。この法案の審議の中で，政府は経済活動にとって重要な役割を果たすユダヤ人家族について検討し，例外的に当該ユダヤ人の両親を強制移送の対象外とすることができると決定した。（*Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, p. 220–221.）

(43) ヴィスリチェニーはモラーヴェクについてはこれとは異なる評価を本国に送っている。*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 71–79, 93–102.

（補注5）アウグスティン・モラーヴェク（Augustín Morávek）（1901年～1975年）。スロバキアの政治家，中央経済局（Ústredný hospodársky úrad）局長（1940年～1942年）。ユダヤ人排斥策や反ユダヤ主義的な立法に積極的に関与。中央経済局によるユダヤ人企業のアーリア化と清算を管理した。戦時中，中央経済局の汚職捜査のとき，（おそらく海外に）逃亡し，戦後の裁判を免れた。

(44) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 152–154.

の間ではまったく人気がなく，ここ数日は，イギリスからの強力なプロパガンダによって不人気はいっそう強まってきた。しかるに，ユダヤ人の強制移送の継続を希望する首相トゥカは，帝国からのきつい外交圧力による支援を要請している。小職としては，この方向で措置を講じなければならないかどうか，指示を仰ぐものである。(45)

ナチス・ドイツの外務省にいたもう一人の人物で，この問題に関与していたのは，エルンスト・フォン・ヴァイツゼッカー(46) である。彼はルディンに宛てて次のような電報を打った。

…… 首相トゥカが要求している外交的支援についてであるが，折を見て大統領ティソには，次のように言っておけば良い。ユダヤ人問題にたいするスロバキアのこれまでの協力の多大なる重要性に鑑みれば，ユダヤ人の強制移送の中止，とくに電報で言及されている3万5000人の強制移送免除は，ドイツ帝国にとって驚天動地の大事件であると。(47)

「圧力」と言っても，要するにスロバキア側としては，公式にスロバキアからユダヤ人を「即時100％」強制移送するようにという趣旨の口上書をドイツ側からは受け取っていない。ドイツ側はまったく脅しを掛けていないのである。こうして，スロバキアの政治家たちは，満足のゆくテンポで強制移送をしなかったからといって，政治権力の座から引きずり下されるのではないかと恐れる必要がなかった。結局，強制移送が「停止」された後に，さらに7本の移送列車がスロバキアを発った。この移送「停止」は，移送の適用対象外になったユダヤ人や就労を許可されたユダヤ人が多数いたことによる。ユダヤ人は「経済的に重要」であったからである。「社会的ニーズ」から，彼らはスロバキアに留まることになった。たとえば，医師，獣医，エンジニアだけではない。アーリア化した企業は「手伝い」を欠けば，事業を継続できなかったのである。

強制移送されるユダヤ人のための支払にかんする協議は，スロバキアとドイツとの関係では特別な問題であった。この話の出所はドイツ側である(48)。再訓練，住宅供給などが必要であるとしてそれにたいして支払を求めるドイツ側の説明は，茶番としか言いようがない。

ドイツ側は執拗に支払を責め立てた(49)。私は，1942年6月のスロバキア語による口上書が重要だと見ている。この中で，スロバキ

(45) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 150–151.
(46) フォン・ヴァイツゼッカーについては脚注9参照。
(47) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 151–152.
(48) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 115–116, 135–139.
(49) より詳しくは以下を参照。Nižňanský, Eduard and Kamenec, Ivan, “Poplatky za deportovaných slovenských Židov,” [Fees for the Deported Slovak Jews,] in: *Historický časopis*, no. 51, Feb. 2003, p. 311–342.

ア政府は，強制移送された人々のために支払う意思があることを明確に宣言しているからである[50]。

スロバキアとドイツの間で1942年9月に開催された第5回政府委員会では，一つの文書が採択された。その第31項は，強制移送されたユダヤ人のための支払と［ユダヤ人の］財産問題を取り上げている。曰く，

> ドイツ外務省とスロバキア外務省との間で取り交わされた覚書（1942年4月29日付 …… および1942年5月1日付のドイツ大使館の口上書 …… ならびに1942年6月23日付のスロバキア外務省の口上書）…… により，ドイツ帝国の領土へとすでに強制移送されたか，もしくは今後，同地に強制移送されるスロバキアのユダヤ人については，一人当たり500ライヒスマルクの支払が合意された。この覚書により，ドイツ政府は，帝国によって受け入れられたユダヤ人がスロバキアの領土内に残した財産にたいしては，今後その請求権を放棄することになった。[51]

この合意にもかかわらず，スロバキア側は，強制移送されたユダヤ人にたいして定められた金額［500ライヒスマルク］の減額を模索した。しかし，うまく行かなかった[52]。

スロバキアだけでなく，クロアチアもユダヤ人の強制移送の費用を支払わなければならなかった。しかし，それは30ライヒスマルクにすぎなかった[53]。

私は，1942年の強制移送がスロバキアにおける反ユダヤ主義政策の集大成であると見ている。ドイツ側は，スロバキアの政治家に圧力をかけて強制移送に同意させる必要はなかったのである。

とくに1940年から1941年にかけてのユダヤ人企業のアーリア化と清算，そして1939年から1941年にかけての様々な専門的職業従事者の就業禁止は，ユダヤ人コミュニティに大きな社会的変化を引き起こした。スロバキアでは，この変化は，強制移送のための必要条件の「前ぶれ」のようなものであった。困窮ユダヤ人の大量発生により，国は突然，その面倒を見たり，就業機会を創出したりしなければならなくなった。ところが，ゲッ

（50）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 150.

（51）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 217–219.

（52）1945年2月14日にブラチスラバで開催された第13回スロバキア国立銀行検討委員会の議事録には，次のような記述がある。

> 国は，強制移送されたユダヤ人一人につき500ライヒスマルクを支払うことになった。これには何の根拠もなく，まったく恣意的なものである。（Archives of the National Bank of Slovakia, f. Slovenská národná banka, revidujúci výbor — zápisnice 1939–1945. 次も参照。*Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, documents no. 95, 121.）

（53）ADAP, Serie E, Band IV, p. 83. このことは，クロアチア駐在ドイツ大使ジークフリート・カシェ（Siegfried Kasche）の次のような報告からも分かる。

> 財務大臣ウラジーミル・コシャク（Vladimir Košak）は，1942年10月9日，再定住したユダヤ人一人につき30ライヒスマルクをドイツ帝国に提供する用意があると述べた。

トー[54]や大規模な労働収容所[55]を建設するには，財源が不足していた。本質的に言えば，アーリア化とは，国家保証によるユダヤ人財産の強奪であり，それによってユダヤ人が困窮化し，その結果，国はそのための救恤財源を捻出しなければならなくなった[56]。こうして，ユダヤ人はスロバキアという国にとって「社会の重荷」になってしまった。分かりやすく言うと，1941年秋以降には，スロバキアにおけるユダヤ人問題が社会問題になったのである[57]。この事態を招いたのは，ユダヤ人センターではない[58]。その責任は，大統領をはじめとする，戦時下のスロバキア共和国の行政府と立法府にある。

1941年秋，フリンカ・スロバキア人民党による借り物でない自前の反ユダヤ政策にナチ

(54) ヴォイテフ・トゥカは，1940年に1万人が集住するユダヤ人ゲットーの創設を提案した。その建設費を負担しなければならないのは，ユダヤ人であった。*Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, p. 82を参照。

(55) ユダヤ人労働収容所は1941年（あるいは1942年）にノヴァキ，セレッジ，ヴューネに建設された。様々なユダヤ人労働センターも作られた。詳しくは以下を参照。*Holokaust na Slovensku 5. Židovské pracovné tábory na Slovensku 1938–1944. Dokumenty,* [The Holocaust in Slovakia 5. Jewish Labour Camps and Centres in Slovakia 1938–1944. Documents,] ed. by Eduard Nižňanský, Igor Baka and Ivan Kamenec, Bratislava: NMŠ; ZNO; VHÚ, 2004.

(56) 1942年4月1日に内務省は，「ユダヤ人義務就労企業の設立とそれを維持するための基金にかんする法律」の政府案についての提案理由書を提出した。それによると，ユダヤ人貧困世帯1万6000世帯への救恤費は，概算で年間1億6000万コルナ（一世帯あたり1万コルナ）とされている。詳しくは，*Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, p. 180–181を参照。

(57) このことを明らかにするために，前注で述べた「ユダヤ人義務就労企業の設立とそれを維持するための基金にかんする法律」の政府案について1942年4月1日に内務省が提出した提案理由書からデータを拾うことにする。この提案理由書によると，ユダヤ人8万8951人（約2万2000世帯）（1941年政令第198号によれば8万9053人）のうち［①平均世帯人員は4人（＝8万8951人÷2万2000（世帯））］，経済活動に従事していた者は合計で3万2527人（36.3%）である。その他に無業ではあるが財産収入で生活するユダヤ人が4000人いた（［上記の有業者3万2527人と合算すれば］合計41%）。事業所や企業のアーリア化・清算，労働許可の取消などの反ユダヤ的措置によって2万2267人が生計の道を断たれ，［前述した財産収入で暮らす］4000人のうち2500人が財産収入による生活が不可能となった（［その数は］2万4767人［＝2万2267人＋2500人］，71.7%である）。同理由書によれば，［全世帯の］約2/3には世帯主がいた。この理由書によると，1万6000世帯（当初の2万2000世帯の72%）が自活の道を絶たれたと結論付けている［1万6000世帯に①で得た平均世帯人を乗ずれば，6万4000人。これが次に述べる②に等しい］。合計すると，②自活の道を断たれたユダヤ人の数は約6万4000人である。この②6万4000人を③強制移送された約5万8000人と比較するために，［この5万8000人に］ユダヤ人労働収容所，労働センター，第6労働大隊にいた約4500人のユダヤ人を加えると［③6万2500人（＝5万8000人＋4500人），したがって②≒③となり］，強制移送によって，政府は，ユダヤ人の社会問題やユダヤ人への経済支援の問題を上手に解決したことになる。詳しくは，*Holokaust na Slovensku 2*, ref. 25, p. 180–181を参照。［数字を付した下線は訳者による。］

(58) ユダヤ人センター（1940年9月に国［スロバキア］が設立した団体で，全ユダヤ人に登録義務がある。）は，再訓練による支援などに努めた。1941年だけではあるが，ユダヤ人青年を中心に約1万人が再訓練課程を受講した。また，貧困にあえぐユダヤ人に食料を提供する公共炊事場を企画立案した。これについては，たとえば以下を参照。*Holokaust na Slovensku 5*, ref. 56, p. 102–108, 116–117; Reports of the Jewish Centre to the Central Economic Office in 1941. SNA Bratislava, f. ÚHÚ, carton 145.

スのホロコースト政策が加わり，それが強制移送という結果となって現れた。スロバキア側は強制移送に同意し，積極的に与(くみ)したのであった。

ドイツ側も，強制移送にたいするスロバキア当局の態度をかなり肯定的に評価した。ドイツ大使ルディンはすでに1942年4月にベルリンに次のような書簡を送っている。

> スロバキア政府は，ドイツがなんら圧力を掛けたわけでもないのに，スロバキアからの全ユダヤ人の強制移送に同意している。スロバキア司教座が介入したにもかかわらず，大統領も個人的には強制移送に同意した。強制移送の対象は全ユダヤ人である。ユダヤ法の埒外(らちがい)にいるユダヤ人（1938年以前にキリスト教徒として洗礼を受けたユダヤ人）約2000人は，共和国大統領令に従って，スロバキアの領土内にある収容所に強制収容しなければならない。ユダヤ人の強制移送は，問題なく粛々と進行している……。[59]

国家保安本部（RSHA）アイヒマン課［ⅣB4課，ユダヤ人課］のロルフ・ギュンター[60]も，1942年5月にドイツ外務省に次のような書簡を送って，スロバキア当局の役割について同様のことを言っている。

> スロバキア政府が輸送手段（移送列車[61]の謂――ニジニャンスキー）を確保したことによって，追放の技術面が著しく改善された。ドイツ帝国鉄道には，列車の手配がすでに大きな負担となり，非常な困難に直面していたからである。[62]

強制移送を継続させるためにドイツが圧力を掛けたのは，ようやく1942年6月になってからであることが知られている[訳注2]。そうは言っても，外務省次官ルターが1942年8月に提出した報告書により，結局は強制移送にかんして「…… 絶対に内政上の問題を引き起こしてはならない。」という指令がブラチスラバに発出されたことも知られている[63]。1941年から1942年の時期に行われたドイツとスロバキアの協議では，強制移送の遂行や継続実施にたいする目に見える形での圧力が［ドイツ側から］あったようには見えない。スロバキアの行政や警察の協力がなければ，ドイツ側は1942年の強制移送を実施できなかったものと思われる。

1943年には，ドイツがスロバキアからの強

(59) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 127-128.

(60) ロルフ・ギュンター（Rolf Günther）（1913年～1945?年）。［親衛隊少佐。］1941年から国家保安本部（RSHA）におけるユダヤ人の強制収容所への移送を担当するⅣB4課［ユダヤ人課］でアイヒマンの副官を務めた。

(61) スロバキア側は，ユダヤ人の強制移送用として移送列車を6本用意した。強制移送の技術面での準備ならびに列車移送にかんするスロバキアとドイツとの協議の詳細については，*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 116, 128を参照。

(62) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 207-212.

［訳注2］1942年6月24日に予定どおりルブリン県に移送列車が到着しなかったことを契機にしてドイツが介入したことはすでに述べられている。移送の停滞については，脚注45の引用（ドイツ大使ルディン報告）を参照。

(63) *Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 207-212.

制移送を復活させようとする試みが何度か見られたが，スロバキア側はそれを許さなかった。また，ナチスは重大な結果をもたらすような内政干渉をすることはなかった(64)。

3．ルーマニア

ルーマニアが，法制化を含めてその国独自の反ユダヤ政策をとり，みずからユダヤ人の強制移送に乗り出し，ユダヤ人を殺害したということは，劈頭で指摘しておかなければならない(65)。

ルーマニアの領土で実際に行われたユダヤ人の強制移送にかんして注目すべきことがある。それは，歴史的にルーマニアの一部であった地域（モルダビア［モルドバ］およびワラキア［ブカレストを含むルーマニア南部］）に居住するユダヤ人（その多くがルーマニア国籍を持っていた）と「獲得領土」［第一次世界大戦後にルーマニア王国領となった地域］に居住するユダヤ人を，ルーマニアが「差別」していたということである。ルーマニア政府は，1941年と1942年に，獲得領土内のブコヴィナ，ベッサラビア，トランスニストリア［沿ドニエストル］のユダヤ人を強制移送して殺害した(66)。ルーマニア政府は，「ルーマニア国籍」のユダヤ人にたいする取扱とは別にしたのである。

ヨーロッパ全土からユダヤ人が［ポーランド］総督府に強制移送されていた時期にも，ルーマニアは「自国」の領土から乱暴なまでにユダヤ人を駆逐し続けた。

1942年4月14日のアイヒマンの報告によると，ルーマニアはユダヤ人1万人をブグ川の向こうのナチス・ドイツが支配するウクライナに追放した。アイヒマンはこの無統制で無計画な作戦に遺憾の意を表明している。1942年5月12日，フランツ・ラーデマッハー(67)が外務省から直接アイヒマンに送った報告書によれば，さらにユダヤ人6万人がブグ川を越えて追放されたとある(68)。ブコヴィナからトランスニストリア［沿ドニエス

(64) より詳しくは，以下を参照。Kamenec, Ivan, “Neúspešné pokusy o obnovenie deportácií slovenských Židov,” [“Unsuccessful Attempts to Revive the Deportation of Slovak Jews,”] in: Milotová, Jaroslava and Lorencová, Anna (eds.), *Terezínske studie a dokumenty*, [Terezín Studies and Documents,] Prague: Academia, 2002, p. 299-315.

(65) より詳しくは，以下を参照。Benz, Wolfgang, “Rumänien und der Holocaust,” in: Benz, Wolfgang and Mihok, Brigitte, *Holocaust an der Peripherie. Judenpolitik und Judenmord in Rumänian und Transnistrien 1940-1944,* Berlin: Metropol, 2009, p. 11-30; Heinen, Armin, *Rumänien, der Holocaust und die Logik der Gewalt,* München: R. Oldenbourg Verlag, 2007; Hausleitner, Mariana, “Großverbrechen im rumänischen Transnistrien 1941-1944,” in: *Rumänien und der Holocaust*, hrsg. von Mariana Hausleitner *et al*., Berlin: Metropol, 2001, p. 15-24.

(66) ブコヴィナ，ベッサラビア，トランスニストリア［沿ドニエストル］（いずれもルーマニア領内）でのユダヤ人殺害者は，28万人～36万人と推定されている。より詳しくは，Benz, ref. 65を参照。
［ブコヴィナの北部と南部はそれぞれ現ウクライナと現ルーマニアに跨（またが）っている。ベッサラビアは現ウクライナ南西部。トランスニストリアは沿ドニエストルとも。地図2参照。］

(67) フランツ・ラーデマッハー（Franz Rademacher）については脚注9を参照。

(68) PA AA Berlin, f. Inland II geheim. R. 100.883 Rumänien 1941-1944.

トル］へのルーマニアによる最後の強制移送は，1942年9月である[69]。

本稿で検討しているルーマニアとドイツの外交交渉の観点から注目すべきは，1941年に，最初にルーマニアが第三帝国に居住するルーマニア国籍のユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用と強制移送に同意したことである[70]。ところが，1942年になると，ルーマニア当局は見解を翻した。［在外の］ルーマニア領事館から様々な抗議が寄せられたからである[71]。1942年6月23日，ルーマニアは口上書をもって，ルーマニア国籍のユダヤ人はイタリア，ハンガリー，スイスの国籍を持つユダヤ人と同等に扱われるべきであると要求した[72]。その後，1942年7月21日，［帝国］外務省でドイツ代表クリンゲンフス[73]とベルリン駐在ルーマニア大使館書記官ヴァレアヌ（Valeanu）との間で協議が行われた。その席上，ルーマニア側は，ルーマニアのユダヤ人がハンガリーのユダヤ人とは異なる取扱を受けているが，そのことは，ルーマニアとしては，政治的威信を失墜させるものと理解していると発言した。その上で，ルーマニア国籍のユダヤ人の財産に関心を示した。これにたいして，クリンゲンフスは，それは間違っていると述べ，財産については領土原則[74]によると主張したが，ルーマニア側はこれを認容しなかった。ドイツ側はルーマニアの立場を変えることができなかった。各国駐在のルーマニア領事は，ルーマニア政府が以前に合意した事柄について［違背したので，］実際

(69) より詳しくはBenz, ref. 65, p. 21参照。

(70) ADAP, Serie E, Bd. 2, dokument 209, p. 353-360. ホロコーストにかんしては，とくにルーマニア語とドイツ語で公文書が作成された。*A1 III-lea Reich şi Holocaustul din România 1940-1945. Documente din archivele germane,* ed. by Ottmar Traşcâ, Dennis Deltant, Bucharest 2007. [A1 The Third Reich and the Holocaust in Romania 1940-1945. Documents from the German Archives, ed. by Ottmar Traşcâ, Dennis Deltant, Bucharest 2007.]

(71) PA AA Berlin, f. Inland II A/B. Das Judentum in Deutschland 1941-42, R 99355. ルーマニアのユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用にかんする1942年3月25日のウィーン駐在ルーマニア総領事の立場がその一例である。1942年3月16日，ルーマニア総領事は，ルーマニアのユダヤ人にかんするユダヤ人マークの着用問題について，ウィーン総督に照会した。1942年3月25日，同総督はその回答にかんする報告書をベルリンに送付した。ルーマニア総領事は，ブルガリア，ハンガリー，トルコ，イタリア，スイスのユダヤ人については取扱が異なっていると訴え，疑義を露（あらわ）にした。1942年6月，外務省次官ルターは，パリ，ブリュッセル，プラハに駐在するそれぞれのルーマニア領事から，ルーマニア国籍のユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用にたいする抗議を受けたと報告した。

(72) PA AA, Berlin, f. Inland II geheim. Die Judenfrage — Kennzeichnung der deutschen und ausländischen Juden 1941-42. R 100 851.

(73) カール・オトー・クリンゲンフス（Karl Otto Klingenfuß）（1901年～1990年）。ナチスの外交官。1942年，ラーデマッハー［脚注9］の部下として外務省のいわゆるユダヤ人課に勤務。

(74) ナチス・ドイツは，この原則をスロバキアとの関係で採用した。自国領土から強制移送されたユダヤ人の財産は，たとえその者が外国籍であっても，移送した国が取得するという原則がこれである。これによれば，ナチス・ドイツの領土から強制移送されたスロバキア国籍のユダヤ人の財産はドイツが取得し，スロバキアから強制移送されたドイツ国籍のユダヤ人の財産は，スロバキアの手に落ちることになる。これにたいして，ルーマニア側は，ユダヤ人の財産を「ルーマニア化」しているので（ルーマニア版のアーリア化），国外のユダヤ人の財産はいささかも手放すつもりはないという原則から出発した。

には「職務権限を逸脱」したのではあるが，ドイツ側がその更迭を要求することはなかった。ドイツ側はこの問題をただちに棚上げにするということもできなかった。ドイツはこの問題をルーマニアだけでなく，ハンガリーやイタリアなど，ヨーロッパ各国政府との協議の俎上にも載せていたからである。

ルーマニアのユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用とそれに続く強制移送の問題は，政治的な「威信」の問題になった。ルーマニアは，ドイツに居住するハンガリー国籍やイタリア国籍を有するユダヤ人にはユダヤ人マークの着用もなければ，強制移送もなかったことに「感情を害した」。ルーマニア側は，「それぞれの国の国籍を有するユダヤ人がユダヤ人マークを着用する」という問題を，同盟国にたいする取扱の平等性の問題として提起した。ルーマニア側としては，ルーマニアがナチス・ドイツの格下の同盟国かどうかを問題視したわけである[75]。ドイツは外国籍のユダヤ人にユダヤ人マークを着用させようとしたが，こうして「望まざる」結果が誘発され，同盟国から突きつけられた批判に対処しなければならなくなった。ユダヤ人の国籍ごとにドイツは平等性を欠いた取扱をしたために，同盟国は，「政治的」な結論（「同盟関係にかかわる」結論）を引き出そうとしたからである。

この問題がようやく解決を見たのは，1943年にルーマニアが，ドイツ帝国の領土内にいるルーマニア国籍のユダヤ人にたいするルーマニア領での居住を受諾してからのことであった[76]。とは言え，こうなったのは，ポスト・スターリングラードのことであって，軍事的・政治的な状況は［この問題が発生したときとは］異なっている。

副首相ミハイ・アントネスク[77]は，1942年9月中旬以降にユダヤ人をルーマニア（トランシルバニアとバナト［地図2参照］）から強制移送することについては，当初から同意していた。このことは，ルーマニアとドイツの間で，ルーマニア領に居住するユダヤ人の「東方」（ポーランド総督府）への強制移送をめぐって行われた協議にかんして，あらかじめ言っておく必要がある[78]。

---

(75) PA AA Berlin, f. Inland II geheim. Die Judenfrage — Kennzeichnung der deutschen und ausländischen Juden 1941-42. R 100.851. 以下は，1942年7月24日付ルーマニア駐在大使発エルンスト・ヴェールマン（Ernst Woermann）宛文書による（当時，ヴェールマンはドイツ外務省次官補兼政治部長（1940年～1943年））。

ドイツは，たとえば占領下のフランスでは，ルーマニア国籍のユダヤ人をフランス国籍やドイツ国籍を持つユダヤ人と同じように取扱った。しかし，その一方でイタリア国籍のユダヤ人やハンガリー国籍のユダヤ人にたいしてはそうではなかった。ハンガリーとルーマニアの関係を考慮するならば，ハンガリー国籍のユダヤ人がルーマニア国籍のユダヤ人よりも優遇されることになれば，ルーマニア政府には不利になったと受けとめられるのではないか。

(76) PA AA Berlin, f. Inland A/B. R 100. 882 Rumänien. 1943年に，［ルーマニア国籍の］ユダヤ人はオランダ，イタリア，ギリシアからルーマニアに強制移送された。

(77) ミハイ・アントネスク（Mihai Antonescu）（1904年～1946年）。ルーマニアの副首相。外務大臣（1943年～1944年）。第二次世界大戦後，処刑。

(78) PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R 100.883 Rumänien 1941-1944. 1942年8月14日にルターがブカレストに宛てた文書には次のようにある。

また，ミハイ・アントネスクから顧問官グスタフ・リヒター［脚注7参照］に宛てた同意文書の内容は，1942年8月12日にルーマニア(ブカレスト)駐在ドイツ大使マンフレート・フライヘル・フォン・キリンガー(79)が［ベルリンの］外務省に送った報告文書から伺い知ることができる(80)。

1942年8月19日，エミール・フォン・リンテレン(81)は次官ルターに，ルーマニアではユダヤ人の強制移送の準備が万端整っていると書面で知らせた(82)。断っておくが，ルーマニア側からすれば，ここに言うユダヤ人とは，「ルーマニア国籍」のユダヤ人ではなく，ほとんどがハンガリー語を話しトランシルバニアかバナトに住んでいたユダヤ人を指している[訳注3]。

しかし，状況は緩やかではあるが変化し始めた。ドイツ大使フォン・キリンガーは，1942年9月15日に，アイヒマン宛の覚書を

治安警察長官兼親衛隊保安局長官［ハインリヒ・ヒムラー］によると，1942年9月10日頃から，ユダヤ人を特別列車でルーマニアから東方へ輸送すると予定されている。［前任者ラインハルト・ハイドリヒは同年6月4日死亡。］

(79) フォン・キリンガーは，スロバキア駐在大使（1940年7月末（ザルツブルク会談）～1941年初め）を経て，ルーマニア駐在ドイツ大使。ルーマニアが連合国側に転じた1944年，ブカレストで自殺。

(80) PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R. 100.881. Rumänien. 1942年8月12日付でフォン・キリンガーが本省に宛てた文書には次のようにある。

…… ルーマニアからのユダヤ人の追放，およびアラド，テメシュブルク［ティミショアラ］，トゥルダからのユダヤ人の即時移送には同意を得てある。書面により，ミハイ・アントネスクは，そのことがイオン・アントネスク元帥［Ion Antonescu（1882年～1946年），第二次世界大戦中のルーマニア首相，脚注87］の希望でもあると伝えてきた。

(81) エミール・オトー・パウル・フォン・リンテレン（Emil Otto Paul von Rintelen）（1897年～1981年）。外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップ（Joachim von Ribbentrop）の部下。Klee, Ernst, *Das Personenlexikon zum Dritten Reich*, Frankfurt/M.: Fischer Taschenbuch, 2005, S. 498.

(82) PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R. 100.881. Rumänien. 1942年8月19日付フォン・リンテレン発ルター宛文書には次のような記載がある。

7月26日付で治安警察長官兼親衛隊保安局長官が親衛隊全国指導者に宛てた，ルーマニアからのユダヤ人追放にかんする報告は以下のとおり。ルーマニアにおけるユダヤ人問題の解決のための政治的・技術的な準備は，国家保安本部（RSHA）の全権委任者によって完了し，移送による追放は速やかに開始できる運びである。おおむね1942年9月10日以降に順次移送列車を出して，ルーマニアからユダヤ人をルブリン県に輸送し，そこで労働能力のある者は労働に従事させ，その他は特別措置とする。これらのユダヤ人はルーマニアとの国境を越えると国籍を喪失することに留意されたい。ルーマニアでの規制のあり方にかんしては，これまで外務省との間で交渉が進行中であって，これと並行して運行計画の策定協議も帝国運輸省との間で実施されているが，この交渉で，我が方は完全に有利な立場にある。国家保安本部の指示に基づいて，ブカレスト駐在ユダヤ人問題顧問官親衛隊大尉リヒターは，ルーマニア副首相ミハイ・アントネスクからの親書を受けたが，小職は，閲覧に供すべくその写しを本書簡に同封したので，その旨留意されたい。別紙の通り強制移送を遂行するにあたり，その許可を求めるものである。……

［訳注3］トランシルバニアはルーマニア中央部にあり，バナトはルーマニア，ハンガリー，セルゼアに跨っている。地図2参照。

添えて，強制移送を開始する正確な日時は確定できない旨，外務省に通知した[83]。ルーマニアは，自国領土のユダヤ人を第三帝国の領土に強制移送することから，静かに手を引いたのである。

1942年9月29日，外務省次官マルティン・ルターは，強制移送の件でブカレスト駐在ドイツ大使館に注文を付けた[84]。

1942年10月5日，ドイツのユダヤ人問題顧問官グスタフ・リヒターは長文の報告書を書き，その中で，強制移送されることを知ったユダヤ人がパニックになったと述べている。様々なユダヤ人活動家がルーマニアの政治家と接触して，強制移送を阻止しようと努めた。リヒターがとくにその名を挙げている政治家は，ユリウ・マニウ（Juliu Maniu）［ルーマニア首相，1873年～1953年］とディヌ・ブラティアヌ（Dinu Brătianu）［ルーマニア財務大臣，1988年～1950年］である。

リヒターによれば，ユダヤ人はトランシルバニア正教会大主教ニコラエ・バラン師[補注6]からも支持を取り付けた。リヒターは，ミハイ・アントネスクがリヒター宛の親書に署名までして同意したにもかかわらず，その決断から逃げ出したことも，隠さず述べている[85]。リヒターが述べているように，イオン・アントネスク元帥の心変わりもまた決定的であった[86]。

このように後退はしたが，ルーマニアはドイツ側と協議して，1942年10月には「ユダヤ人問題検討委員会（Commissariat for the Jewish Question）」を設置したことは述べておく必要がある。この委員会の委員長には，ラドゥ・D. レトカ（Radu D. Lettca）[補注7]が納まり，ルーマニアにおけるユダヤ人問題のより抜本的な解決を目指すことになった。

ドイツ側はルーマニア側と強制移送にかんする協議を続けた。1942年10月9日，ドイツ大使館から派遣された顧問官シュテルツァー（Dr. Stelzer）が，［副首相兼外務大臣］ミハイ・アントネスクと面談した結果，1942年10月22日にミハイ・アントネスクは強制移送についてリヒターと再度協議することにした。その会談では，ミハイ・アントネスクは，トランシルバニアからのユダヤ人の「退去」は検討されているだけであって，その実

（83）PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R. 100.881. Rumänien.

（84）PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R. 100.881. Rumänien. 1942年9月29日付ルター発フォン・キリンガー宛文書には次のようにある。

ルーマニア側からは，ユダヤ人追放にかんする移送計画の策定会議への出席者はいなかった。今後は，我が方で一切を準備し措置を講ずることとして，冬が到来する前に実行可能とするよう，努められたい。

（補注6）ニコラエ・バラン（Nicolae Bălan）（1882年～1955年）。オーストリア・ハンガリー帝国出身のルーマニア人聖職者。ホロコーストの渦中に，ブカレストで，ルーマニアのユダヤ人（レガト，南トランシルバニア，バナトに居住。）の絶滅収容所への強制移送計画にたいする反対演説を行った（1942年）。

（85）ただし，これまでにこの文書や書簡を発見し，公表した歴史学者は一人もいない。

（86）PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R. 100.881. Rumänien. リヒターは，ルプ博士（Dr. Lupu）がイオン・アントネスク元帥に個人的に働きかけたと言っている。

（補注7）ラドゥ・D. レトカ（1890年～1980年）。ルーマニアのユダヤ人を沿ドニエストルに強制移送することを主導。

施は延期されるという趣旨の元帥イオン・アントネスク（Marshal Ion Antonescu）[87]による決定の写しを手交した[88]。

マルティン・ルター（上述）は，最終的に1942年12月14日になって，ブカレスト駐在ドイツ大使フォン・キリンガーに宛てて，今すぐに強制移送できなくても問題はない，という趣旨の書簡を送っている。1943年春に強制移送を開始することが重要だったからである。しかし，強制移送は実現しなかった。ルーマニア政府が1938年以降に自国のとった反ユダヤ政策を要約した覚書（1943年3月26日付）[89]には，ユダヤ人の強制移送が一つの解決策になると書かれているが，ユダヤ人の移送先はアングロ・サクソン列強の支配地域［たとえばパレスチナ］であるべきとされたからである[90]。

ルーマニアは，みずからユダヤ人を強制移送して殺害したにもかかわらず，1942年以降になると，自国領土からのナチス強制収容所への強制移送は控えるようになった[91]。ドイツ側としても，独力でルーマニアからの強制移送は実行できなかった。ルーマニアからのユダヤ人の強制移送の問題では失敗したにもかかわらず，ナチス・ドイツは，たとえばミハイ・アントネスクのような責任ある立場にあったルーマニアの政治家にたいする処罰や罷免を要求することはなかった[92]。

4．ハンガリー

1920年以降，ハンガリーもまた自前の反ユダヤ政策を執ってきた。1938年以降になると，様々な反ユダヤ法が次々と議決された[93]。1941年に，ハンガリーは外国籍のユ

(87) イオン・アントネスク（1882年～1946年）。ルーマニア軍元帥。独裁的な権力を持った首相兼総統（Conducător）（1940年～1944年）。第二次世界大戦後，処刑。

(88) PA AA Berlin, f. Inland A/B. R 100.881 Rumänien.

(89) ブッコビナとベッサラビアからのユダヤ人の強制移送ならびにトランスニストリア［沿ドニエストル］におけるユダヤ人の殺害については，この覚書では触れられていない。より詳しくは，以下を参照。Hausleitner, Mariana, *Die Rumäniesierung der Bukowina: Die Durchsetzung des nationalstaatlichen Anspruche Großrumäniens 1918–1944*, (Südosteuropäische Arbeiten, number 111,) München: R. Oldenbourg, 2001; Hausleitner, ref. 66.

(90) ルーマニアのユダヤ人問題にたいする最終的な解決策は，ただ一つしかないというのが我々の意見である。アングロ・サクソン諸国の政府は，ある地域へのユダヤ人の移民を認めているので，今日でも移住は可能である。（PA AA Berlin, f. Inland A/B. R 100.881 — Rumania.）

1942年12月12日付のベルリンに宛てたマンフレット・フォン・キリンガーによる最終報告は，イオン・アントネスクがユダヤ人をパレスチナに移送する準備をしており，ユダヤ人一人につき20万レウを欲しいと考えているというものであった。このことから，フォン・キリンガーは，イオン・アントネスクがユダヤ人を追放して金儲けをしたがっていると結論づけた。PA AA Berlin, f. Inland II geheim, R. 100.881. Rumanien.

(91) しかし，第二次ウィーン裁定［1940年8月30日］により，ルーマニアはその領土の一部をハンガリーに割譲することになり，トランシルバニア地方がハンガリー領となったために，1944年，同地のユダヤ人は，他のハンガリーのユダヤ人と一緒の列車で強制移送された。

(92) より詳しくは，以下を参照。YVA Jerusalem, f. R 1, A. A. Deutschland III (Microfilm 2 215 and 2 218). Hikberg, ref. 4, p. 811–858.

(93) 1938年には「社会的および経済的生活のより効果的な確保にかんする法律」（1938年法律第15号）が制定された。同法では，「宗教上

ダヤ人を強制移送して，ナチス・ドイツに引き渡した。対ソ戦開始後，バルドーシー[94]政権は，主としてカルパチア・ルテニア地方から 1 万 5000 人～1 万 7000 人のユダヤ人をカメネツ・ポドリスキー（Kamenec Podolský, Kamenets-Podolsk, Кам´янець-Подільський：現ウクライナ領）［リヴィウ（Lviv, Львів）の南東約 260キロメートル］に強制移送した。この移送は，ミクローシュ・ホルティ[95]とラスロー・バルドーシーの同意を得て，カルパチア・ルテニア方面総監ミクローシュ・コズマ[96]の手で実行された。ドイツ軍はこれらのユダヤ人のほとんどを即刻殺害した[97]。

ハンガリー独自の反ユダヤ主義政策としては，ヴォイヴォディナ（Vojvodina）地方のノヴィ・サード（Novi Sad, Нови Сад）[98]［現クロアチア領，ベオグラードの北西約 76キロメートル］での大規模な虐殺がある（1942 年 1 月）。ハンガリー軍司令官フェレンツ・フェケテハルミー＝ツェイドネル[99]は，数千人のユダヤ

のユダヤ人」を，「1919 年 7 月 31 日以降にユダヤ人コミュニティから離脱した者，もしくはキリスト教に改宗した者。1919 年 7 月 31 日以降に，ユダヤ人の両親から出生した者（ただしその両親の宗旨は問わないものとする）。」と定義している。

1939 年には「ユダヤ人の公的および経済的生活の拡張の制限にかんする法律」（1939 年法律第 4 号）が制定され，「宗教上のユダヤ人」は，「7 歳の誕生日か，もしくはその日以降にキリスト教に改宗した者，その他，1939 年 1 月 1 日以前に改宗しなかったユダヤ人を父親もしくは母親とする改宗者，あるいは 1849 年からハンガリーに居住する世帯の世帯員として誕生しなかった改宗者（7 歳以降にキリスト教徒になった者を含む）」と定義された。以上の法律では，信仰告白に基づいてユダヤ人が定義された。

1941 年に施行された法律第 15 号［1894 年婚姻法ならびに人種保護規程の改正と修正にかんする法律］では，ドイツのニュルンベルク法（1935 年）の影響を受けて，ユダヤ人が人種的に定義された。同法第 9 条によるユダヤ人の定義は以下のとおり。「祖父母の 3 人以上がユダヤ人の者。祖父母の 2 人がユダヤ人で，ユダヤ人として生まれた子，または両親のいずれか一方が婚姻時に洗礼を受けていない子。少なくとも一人の祖父母がユダヤ人である者と婚姻した親の子。母親がユダヤ人で父親が不明の子。母親が混血ユダヤ人で父親が不明の子で，出生時に母または子のいずれか一方が洗礼を受けていない子。祖父母の一人がユダヤ人であり，一方の混血ユダヤ人の親が定義上のユダヤ人に該当し，かつ本法律の施行後に出生した子。」

(94) ラスロー・バルドーシー（László Bardóssy）（1890 年～1946 年）。1941 年から外務大臣。ハンガリー首相（1941 年 4 月 3 日～1942 年 3 月 7 日）。第二次世界大戦後，ハンガリーで処刑。

(95) ミクローシュ・ホルティ・デ・ナギバーニャー（Miklós Horthy de Nagybánya）（1868 年～1957 年）。1920～1944 年，ハンガリー摂政［事実上の国家元首］。

(96) ミクローシュ・コズマ（Miklós Kozma）（1884 年～1941 年）。内務大臣（1935 年～1937 年）。カルパチア・ルテニア方面総監（1940 年～1941 年）。

(97) たとえば，Hilberg, ref. 4, p. 875-877（訳書下巻，96 頁以下）を参照。［第一次ウィーン裁定（1938 年）により範囲が拡大したハンガリーは，併合地に居住していたユダヤ人を検束して，ドイツ軍に渡した（地図 2 参照）。］

(98) 1941 年のユーゴスラビアの敗戦後，ハンガリーがこの地方を獲得した。［パンノニア平原の北部（現セルビア北部）にあるノヴィ・サードのハンガリー名はウイヴィデーク（Újvidék）。末尾に掲載した地図 1 参照（1941 年 12 月にハンガリーに割譲された地域にノヴィ・サードがある）。］

(99) フェレンツ・フェケテハルミー＝ツェイドネル（Ferenc Feketehalmy-Czeydner）（1890 年～1946 年）。ハンガリーがユーゴスラビアを占領した後，ヴォイヴォディナ地方の一部を獲得したときのノヴィ・サード［脚注 98 参照］の軍司令官。1943 年，ナチス・ドイツに保護を求めた後，1944 年 10 月，ハンガリーに帰

人とセルビア人を射殺した[100]。

これらの事例は，ハンガリーがルーマニアと同様に（しかしスロバキアのようにではなく），ユダヤ人を「区別」していたことを示すと考えても良かろう[101]。ハンガリー国籍のユダヤ人とユダヤ人難民もしくは「獲得」領土に居住していたユダヤ人とは，その取扱が異なっていた。（ところが，スロバキアの政治家たちには，そのような区別は存在せず，すべてのユダヤ人が同じであった。）

本稿で取り扱っている問題との関連で言えば，第三帝国の国内に居住するハンガリー国籍のユダヤ人にたいするユダヤ人マークの着用，ならびにナチス・ドイツの領土に居住するハンガリー国籍ユダヤ人の強制収容所への移送について，ハンガリーは同意していなかったと言うことができる。ルーマニアと同様に，しかしそれよりも大規模に，ハンガリーは，1943年にフランス，ベルギー，オランダからすべてではないが，ユダヤ人を自国に連れ戻し受け入れている。

ハンガリーでは，この時期に政権交代があった。1942年3月，バルドーシー政権は，ミクローシュ・カーライ[102]を首班とする新政権に取って代られた。

ハンガリー国籍を有するユダヤ人と「外国籍」のユダヤ人とを区別するという差別的なやり方は，ハンガリー側からの申入の中にも見ることができる。外務省次官ルターが外務省［ユダヤ人課］のクリンゲンフスに送った文書には，年明け（1942年の謂 —— ニジニャンスキー）には，ハンガリー軍中将ヨゼフ・ヘスレーニ[103]が，許可なくハンガリーに居住している［ハンガリー国籍を持たない］ユダヤ人難民を強制移送（排除）したい旨を表明しているとある。ハンガリー側の最終提案は，これらの［ハンガリー国籍を持たない］ユダヤ人を「ドニエストル川の東方」に移送するというものであった。ドイツ側がこの問題に関心を抱くようになったのは，ハンガリー駐在武官経由で［この提案が］伝えられた1942年7月の初旬であった。しかし，国家保安本部（RSHA）がハンガリー側の提案を拒否して，お蔵入りになった[104]。

国し，サラシ政権の陸軍省副大臣。戦後，ユーゴスラビアに引き渡され，ノヴィ・サードでの殺戮により有罪判決を受け，処刑。

（100）たとえば，Hilberg, ref. 4, p. 875-877（訳書下巻，96頁以下）を参照。［1941年のカメネツ・ポドリスキーの虐殺とともに，このノヴィ・サードの虐殺は，ドイツの占領下になかったハンガリーのホロコーストとして有名である。］

（101）第一次ウィーン裁定［1938年11月2日］に基づき，ハンガリーはスロバキア南部の一部［旧領］を獲得し，1939年3月にはカルパチア・ルテニアを獲得した。1940年，ハンガリーは第二次ウィーン裁定［1940年8月30日］によってルーマニアからトランシルバニア地方を獲得した。その後，1941年にはユーゴスラビアからヴォイヴォディナ地方の一部を取得した。［地図1参照。］

（102）ミクローシュ・カーライ（Miklós Kállay）（1887年～1967年）。ハンガリー首相（1942年3月9日～1944年3月22日）。1944年，ドイツ軍がハンガリーを占領した後，カーライはマウトハウゼン収容所［リンツ/オーストリアの東約20㌔］に，その後ダハウ収容所［ミュンヘン/ドイツ近郊］に収監されたが，連合軍によって解放された。カーライ政権時代のハンガリーとドイツの関係にかんする全般的な情報については，たとえばDurucz, ref. 3を参照。

（103）ヨゼフ・ヘスレーニ（Joszef Heszlényi）（1890年～1945年）。第四軍司令官（1942年）。

（104）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, years

この問題は非常に深刻で，ヒムラーもそのことは理解していた。1942 年 11 月 30 日付のヨアヒム・フォン・リッベントロップ宛の書簡[105] の中でこの問題に触れたヒムラーもまた，このような中途半端な解決［ユダヤ人の国籍で執るべき措置を変えること］を拒（こば）み，その「作戦」にはハンガリー国籍を有するユダヤ人が含まれるということについては，ハンガリー側が同意する心構えを見せるまで，無国籍ユダヤ人の「追放」を待ってみてもよかろうと述べている[106]。このとき，ヒムラーはユダヤ人問題専門の顧問官をハンガリーに派遣しようとしたほどである[107]。ヒムラーは，この顧問官にスロバキアでその実力が知れ渡っていたディーター・ヴィスリチェニーを据（す）えるつもりだった。しかし，ハンガリー側は顧問官を受け入れなかった[108]。

ドイツは，第三帝国に居住するハンガリー国籍のユダヤ人にユダヤ人マークを着用させて，ハンガリーに移送しようとした。このことは，ドイツとハンガリーとの間で 1942 年から 1943 年にかけて数回に亘って行われた議論によって跡づけることができる（ハンガリー側からの出席者は，外務大臣代理兼ベルリン駐在ハンガリー大使デメ・ストヤイ

1942-1943, microfiche — R 100. 890. Report from M. Luther to Klingenfuss from 24 Dec 1942. 1942 年 9 月 25 日付のアイヒマン発キリンガー宛文書には次のようにある。

技術的な理由により，当面は，ハンガリーのためにその一部でも実行に移すことは不可能である ……。たとえ一部のユダヤ人だけを移送することになったとしても，せいぜいこれまでにハンガリーに逃れてきたユダヤ人だけしか，引き受けることができないであろう。これまでの経験から言えば，このような部分的な行動の準備と実施には，ハンガリーに居住する全ユダヤ人に可能な限り網を掛けるのと同じくらい多大な労力が必要になると思われる。以上の次第で，ハンガリーに避難してきたユダヤ人を排除するためだけに，すべての移送装置を作動させ，その後は，ハンガリーにおけるユダヤ人問題の解決への見通しがないままに，［移送を］取りやめることになってしまうというのはいかがなものか。ハンガリー側が同国のユダヤ人を［移送］措置［の対象に］する用意ができるまで，現下の事情ではこの措置は待つのがよいと思われる理由は以上のとおりである。……（PA AA Berlin, f. Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, roky 1942-1943, microfiche-R 100.890.）

（105）外務省は，1942 年 7 月 21 日付のドイツ国防軍大本営（Oberkommando der Wehrmacht：OKW）からの書簡でこの問題が知らされた。（PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, years 1942-43, microfiche — R 100.890. を参照。）外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップ（Joachim von Ribbentrop）（1893 年～1946 年，在任 1938 年～1945 年）も，1942 年 12 月 10 日，［ハンガリー駐在ドイツ］大使ディートリヒ・フォン・ヤゴウ（Dietrich Wilhelm Bernhard von Jagow）［補注 10］にたいして無国籍ユダヤ人にかんする情報を求めている。（PA AA Berlin, f. Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, year 1942-1943, microfiche — R 100.890 を参照。）

（106）PA AA Berlin, f. Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, years 1942-1943, microfiche — R 100.890.

（107）ハンガリーにおけるユダヤ人問題を解決するための顧問官の［派遣］問題は，1942 年 1 月のヴァンゼー会議の議事録にも登場する。たとえば，Roseman, ref. 5, p. 138-139 には，次のようにある。

ハンガリーでこの問題を解決するために，可及的速やかにユダヤ人問題担当の顧問官を配置する必要性をハンガリー政府にたいして主張するものとする。

（108）PA AA Berlin, f. Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, years 1942-1943, microfiche — R 100.890.

(Döme Sztójay)[109] と首相カーライ)。

1942年8月11日に［駐独ハンガリー］大使ストヤイとドイツ外務省次官ルターによる，最初の重要な会談が［ドイツ］外務省で行われた。ストヤイは，占領下のフランスにおけるハンガリー国籍のユダヤ人にたいするユダヤの星の着用義務にたいして，政府の名で抗議した。ハンガリー政府の指示により，ストヤイは，ルーマニア国籍やイタリア国籍のユダヤ人には着用義務がないので，差別だと主張した。その反面で，ストヤイ自身は，反ユダヤ主義の闘士であるから，このことを口にしなければならないのは，不本意であるとも発言した。ストヤイにたいしてルターは，その問題はルーマニアとの間ではすでに解決されつつあり，イタリアでも同様である旨を伝えた[110]。このことから，ハンガリーはルーマニアと同様に，自国籍を有するユダヤ人にかんする問題を互恵平等にかかわる問題（外国籍の全ユダヤ人をナチス・ドイツが平等に取扱うべき問題）として，その解決を求めていたことが分かる。

この会談により，ドイツ側はハンガリーと問題認識を共有した。このことは，［外務次官］ルターの発言に基づいて説明することができる。外務大臣リッベントロップの下でハンガリーを担当しているフォン・リンテレンに宛てた，1942年8月21日付の電報で，ルターは，反ユダヤ法制の準備が不十分のために，強制移送を実施できないと述べている[111]。

1942年9月26日付でカール・ヴェルクマイスター[補注8]が外務省に宛てた書簡には，東部戦線の戦況にかんしてハンガリー政界には敗北主義が漂っているという情報も書かれていて，それについてはユダヤ人が影響しているとされている[112]。これは，世界中のあらゆる悪事には，その裏でユダヤ人が糸を引いている，ハンガリーでもそうだとする考えを明確に示す好個の事例である。

1942年10月2日，ルターは再びストヤイと面談した。第三帝国ならびに西ヨーロッパに居住するハンガリー国籍のユダヤ人について，ルターはストヤイにたいして，ユダヤ人マークを着用させて［東方に］「退去」させるか，あるいは1942年12月31日までにこれらのユダヤ人をハンガリーに入国させて受け入れるか，という二つに一つ，どちらにするのかと迫った。ユダヤ人の財産にかんして，

(109) デメ・ストヤイ（本名，ディミトリエ・ストヤコヴィチ）(Dimitrije Sztojakovich)（1883年～1946年）。ベルリン駐在武官（1932年～1935年），ベルリン駐在ハンガリー大使（1936年～1944年），ハンガリー首相（1944年3月22日～1944年8月29日）。第二次世界大戦後，処刑。

(110) PA AA, Berlin, f. Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

(111) 以下は，ADAP, Serie E, Bd. 2, document 209 による。

ハンガリー政府は，ユダヤ人の追放にはいまだに着手していない。ハンガリーにおける現状のユダヤ人法制では，［強制移送が］十分な成功を収めることが見通せないからである。

(補注8) カール・ヴェルクマイスター(Karl Werkmeister)（1898年～1976年）。ハンガリー（ブダペスト）駐在ドイツ大使館一等書記官（1940年11月～1944年3月）。

(112) PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

ルターは領土原則を主張し，ハンガリーにおけるユダヤ人問題の「解決」についての考えかたを次の 3 項目にまとめた。

1．文化と経済の分野からの排除。
2．ユダヤ人マークの着用。
3．「東方への追放」。

ユダヤ人の財産にかんして，ナチス・ドイツはこのときも領土原則を堅持した[113]。［ハンガリー駐在ドイツ］大使ディートリヒ・フォン・ヤゴウ[補注9] による 1942 年 10 月 13 日付の報告では，ハンガリー側はこの原則を拒否したとある[114]。

ストヤイとの会談［1942 年 8 月 11 日］では不十分であったのであろうか，1942 年 10 月 8 日，ルターはブダペストに駐在していた大使フォン・ヤゴウに，ハンガリー国籍のユダヤ人にたいするドイツの政策について通達した。フォン・ヤゴウはこの情報をハンガリー政府に伝えることになった[115]。

事態の深刻さは，［ベルリン駐在ハンガリー大使］ストヤイと［ドイツ］外務大臣フォン・リッベントロップの会談予定にかんするドイツ側の議論の中にも表れている。1942 年 10 月 13 日のリッベントロップ決定によって，ハンガリー大使ストヤイはナチス外務省の二番手である外務次官フォン・ヴァイツゼッカー[補注10]「だけ」と面談することになった[116]。

1942 年 10 月 14 日にストヤイを迎えた外務次官［フォン・ヴァイツゼッカー］は，大使［ストヤイ］がルターからそれまでに聞かされていたすべてについて，その要点を繰り返した。そして，ブダペストに行く予定があるのなら，滞在中にハンガリー政府とこの問題について話し合ってはどうかとストヤイに言い添えた。さらにまた，フォン・ヴァイツゼッカーは，ブダペストが爆撃されることになればユダヤ人はパニックを引き起こすかもしれないとも指摘した。ヴァイツゼッカーの見解によれば，このことは「ユダヤ人を東方へ移送する」もう一つの理由であった[117]。

1942 年 10 月 17 日，ユダヤ人問題を担当しているのは首相のカーライであるとするハンガリー外務省の見解を，フォン・ヤゴウは報告した[118]。

同日，フォン・ヤゴウは，「ユダヤ人問題」

（113）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

（補注 9）ディートリヒ・ヴィルヘルム・ベルンハルト・フォン・ヤゴウ（Dietrich Wilhelm Bernhard von Jagow）（1892 年～1945 年）。ハンガリー（ブダペスト）駐在のドイツ公使（1941 年～1944 年）。ドイツ軍のハンガリー占領（1944 年）を機に，エトムント・フェーゼンマイヤーと交代。

（114）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

（115）*Ibid.*

（補注 10）エルンスト・ハインリヒ・フライヘル・フォン・ヴァイツゼッカー（Ernst Heinrich Freiherr von Weizsäcker）（1882 年～1951 年）。ドイツ外務省次官（1938 年～1943 年），バチカン駐在ドイツ大使（1943 年から 1945 年）。

（116）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

（117）*Ibid.*

（118）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

にかんするハンガリー側の回答についても説明した。ハンガリー国籍を持つユダヤ人にかんして，ハンガリー側は「平等」原則を主張した。その意味は，ハンガリー国籍のユダヤ人がすべて平等に取り扱われるべきとする原則を歓迎するということであった。フォン・ヤゴウが間髪をおかずに伝えたように，ユダヤ人の財産にかんして，ハンガリーは依然として領土原則を拒絶していた。

［ユダヤ人問題の］「解決」のための一般原則として，ハンガリー側は，国家主権との関係で，どの国も国ごとに解決策をとらなければならないと主張し，1920年，1938年，1939年，1941年の反ユダヤ主義的な法律(補注11)に言及した。しかし，ユダヤ人がほとんどを占めていた経済分野では事情が異なっていた。ハンガリー側は，ハンガリー経済の80%が「ドイツ経済のため」であることも指摘した。ユダヤ人を枢要な地位から排除しようとしてもできなかったのは，まさしくこのせいであった。また，ハンガリー側は，ユダヤ人を経済分野から排除してしまえば，様々な問題が生じかねないとして，ユダヤ人マークの着用を拒否した。ハンガリーからユダヤ人を「追放」できなかったのは，そうしてしまえば騒乱が誘発されたり経済面での戦争協力が立ちゆかなくなりかねないためであった(119)。しかしその一方で，ハンガリー側は，引き続き「ユダヤ人問題を解決」すると約束した。

同月，大使フォン・ヤゴウは，カーライが演説の中で「ユダヤ人から政治的地位と財産を奪うだけでは十分ではない。ユダヤ精神も取り除かなければならない。」(120)と述べたと報告した。

その一方で，フォン・ヤゴウの報告によれば，1942年10月27日のカーライとの会談で，ハンガリー首相は，ハンガリー政府が自国籍のユダヤ人の取扱についての回答を確約すると述べたとされている。ただし，フォン・ヤゴウによれば，カーライは，ハンガリーのユダヤ人問題が純粋な内政問題であるとも述べたとのことである。ハンガリー国内には約100万人のユダヤ人がいたために，ハンガリーの立場は［他の国々とは］異なっていたのである。［これにたいして］ユダヤ人問題が国際問題であると応じたフォン・ヤゴウは，この問題にかんしてハンガリーとドイツ両国の専門家会合を開いてはどうかと提案した(121)。

（補注11）1920年9月に，いわゆる「人数制限法（ヌメルス・クラウスス法）」がハンガリー議会で可決，制定された（1920年法律第25号）。この法律は，第一次世界大戦後初の反ユダヤ法という芳しくない誉れがあるとされている。トリアノン条約（1920年）の締結後，表向きはハンガリーの大学での過密状態を緩和するという目的で，入学定員は，総人口に占める「人種」と「国籍」の割合に応ずることになった。ユダヤ人学生の定員を6%とする規定は，各学部におけるユダヤ人学生を著しく減少させることになるとともに，数千人のハンガリーのユダヤ人学生が外国の大学に流出することになり，将来を担うリーダーをハンガリーから奪い，西側の高等教育に追いやることになった。

1938年，1939年，1941年に制定された反ユダヤ主義的な法律については，脚注93参照。

（119）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2275, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

（120）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2276, years 1942–1943, microfiche — R 100.890.

（121）*Ibid.*

他方，ブダペストから戻った［大使］ストヤイは，1942年11月26日にフォン・ヴァイツゼッカーに面会したが，ハンガリー政府はユダヤ人問題については何も決めていないと述べるに留まった(122)。

なお，［1942年10月27日の会談で］カーライはフォン・ヤゴウにたいして，ユダヤ人を完全に排除して強制移送するならば，ハンガリーのユダヤ人は同化しているのだから，我が方としてはハンガリーに居住するドイツ人も同化させなければならないと断じた。外務省次官ルターにもこの見解は知らされた(123)。

ドイツの圧力はまだ効き目がなかった。1943年3月9日，［ドイツ経済省］経済問題担当のギュンター・ベルゲマン（Günther Bergemann）(補注12) はマルティン・ボルマン（Martin Bormann）に書簡を送り，ハンガリーの国務大臣ベーラ・ルカーチ（Béla Lukács）の訪問中に，ハンガリーにおける「ユダヤ人問題の解決」に介入し，重ねてドイツ側3項目要求（文化と経済の分野からの排除，ユダヤ人マークの着用，「東方への追放」）を突きつけて欲しいと要請した(124)。

ハンガリーにおいてユダヤ人問題を「解決」するという問題は，1943年4月17日のヒトラーとホルティとの会談における協議事項の一つであった。しかし，この会談はスターリングラード以後のことで［攻防戦の終結は1943年2月2日］，すでに軍事的・政治的状況が異なっていたために，ヒトラーは，ハンガリーからユダヤ人を強制移送する必要性について，ホルティを説得することはできなかった(125)。

ドイツ駐在ハンガリー大使ストヤイとハンガリー首相カーライの発言を分析してみると，強制移送とユダヤ人コミュニティにたいする迅速な介入に反対するハンガリー側の主張が，多岐に渡っていることが分かる。中でも枢要な地位を占めている経済分野からユダヤ人を排除することができないという主張は重要であった。ハンガリー側は，ドイツへの軍需物資の供給が危うくなるとさえ主張したのである。ハンガリーのユダヤ人がユダヤ人マークを着用していないのに，ルーマニアのユダヤ人が着用することになれば，ルーマニアは威信失墜を抗議するすることになるが，ハンガリーでもユダヤ人マークの着用が実施されるということになれば，ハンガリー側としては，それではイタリアでもユダヤ人排斥措置［ユダヤ人マークの着用］が実施されているかどうかを調べてみようということになる。

以上から，ドイツ側として考慮もしくは議論しなければならない論点は，割と広範に

（122）*Ibid.*

（123）PA AA Berlin, Inland II — g, Akten Judenfrage in Ungarn — Bd. 212, Nr. 2288, microfiche — R 100.894.

（補注12）ギュンター・ベルゲマン（1902年～1968年）。帝国経済省高官，通商政策部長（1939年～1941年），南東ヨーロッパ諸国との経済問題交渉担当（バルカン諸国のほか，スロヴェニア，ハンガリー，ルーマニアにも助言）。

（124）PA AA Berlin, Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 208, Nr. 2274, years 1942-1943, microfiche — R 100. 890.［マルティン・ボルマン（1900年～1945年）はヒトラーの個人秘書として絶大な権力をもって内政を担当。］

（125）Hilberg, ref. 4, p. 881.（訳書下巻，112頁。）

渡っていることが分かる[126]。ハンガリーとドイツとの協議は，一同盟国がユダヤ人問題の解決についてのドイツの要求にたいして，不同意であることをきっぱりと表明する可能性がいくらかはあったことを示している。それでもハンガリーの政治家たちは，ただちに政治力を失うということにはならなかった[127]。

スロバキアの政治家たちはこれらの議論について詳しくは知らされていなかったが，公表された公文書によると，スロバキア側がとくに関心を持っていたのは，ナチス・ドイツに居住するハンガリー国籍のユダヤ人の立場であったと見受けられる[128]。ここでは，次のことを付け加えておくべきであろう。それは，1942年にはハンガリー国籍のユダヤ人が，スロバキアから強制収容所に移送されることはなかったこと，そして，移送されないためにはハンガリー側としては自国の国籍を楯にしなければならなかったことである。このことは，スロバキア側も同意していた。1944年［3月］にハンガリーと［8月に］スロバキアがナチス・ドイツに占領されると，状況は一変したが，そうは言っても，ハンガリー政府関係者の協力がなければ，アイヒマン麾下の機動部隊が，ハンガリーからのユダヤ人の大規模な強制移送を成し遂げることはできなかったであろう。

ハンガリーとスロバキアの状況を比較する場合，1942年秋のヴィスリチェニー報告が興味深い。1942年10月1日，ヴィスリチェニーはブダペストでファイという人物に会っている[129]。［その報告によれば，］ファイは，ユダヤ人が経済分野で重要な地位を占めているので，少しずつしか現状変更ができない，3段階を踏むことが必要である，第1段階はカルパチア・ウクライナ地方とトランシルバニア地方，第2段階はハンガリーの郡部，そして最後の第3段階はブダペストであると述べ，スロバキアのような強制移送は，ハンガリーではありえないと言い切ったが，ヴィスリチェニーはこれに論評しなかった。ヴィスリチェニー報告には，ファイの見解にたいする批判的なコメントもない。

他方で，56本の移送列車がスロバキアを出発した後に送られたドイツ大使館からの報告（1942年10月8日付）には，ユダヤ人の店舗と事業所を合わせて約1万件を清算し，ほぼ2000件をアーリア化してもなお，依然としてユダヤ人が重要な経済的地位を占めていると記載されている[130]。スロバキアがユダヤ人の強制移送を快諾すると，ただちに「その当然の論理として」ドイツ側は，例外なき強制移送と「ユダヤ人が一掃された」国（完全にユダヤ人のいない国）の創建を要求した。

（126）YVA Jerusalem, f. R 1, A. A. — Inland II g 58/1 (microfilm 2219); Hilberg, ref. 4, p. 859–926.（訳書下巻，96頁–145頁。）

（127）スロバキアの政治家たちは，第二次世界大戦後の裁判で，この論法を用いた。

（128）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 140–142.

（129）この「ファイ」がカーライの秘書のゲデオン・ファイ＝ハラシュ（Gedeon Fay-Halasz）なのか，国会議員のラースロー・ファイ（László Vay）なのかについては，議論が続いている。ドイツ語では「V」が「F」のように発音されるから，厄介である。たとえば，Hilberg, ref. 4, p. 879を参照（訳書下巻，111頁）。

（130）*Holokaust na Slovensku 4*, ref. 9, p. 220–222.

5．結　　論

ナチス・ドイツの同盟国か，衛星国であった非占領国三ヶ国の状況を比較して得た結論は，以下のとおりである。

ナチス・ドイツにとってはるかに重要であったのは，ヨーロッパの国々でいかなる犠牲を払ってでもホロコーストを実現させるということではなく，戦争に勝利することであった。第三帝国にとって，勝つほうがもっと重要であった。

1．スロバキア，ルーマニア，ハンガリーの三ヶ国は［親独国として政情が］安定していて，ユダヤ人問題を［自力で］解決しても国内の政治的危機が引き起こされることはないので，ナチスはこれらの国々を占領する必要はなかった。三ヶ国を強引に占領するよりも，各国から協力を取り付けることのほうが重要であった。第三帝国に十分な警察力や軍事力がなかったわけではないが，東部戦線にその力を回す必要があったからである。

2．これら三ヶ国の安定が，ナチス・ドイツのための軍需生産にとって重要であった。一日千秋の思いで，国防軍は軍需物資の到着を待っていた。

3．さら重要であったのは，これらの三ヶ国やその他の国々が東部戦線に兵力を送り出して前線で戦闘するか，あるいは後方支援に当たることであった。1942年の時点では，どのような兵力もドイツにとってはありがたい存在であった。

以上で述べたが，ナチス・ドイツのこのような考え方は，真に実利的なものであった。戦争に勝ちさえすれば,ユダヤ人だけでなく，ヨーロッパにたいしてしたい放題ができるからである。

そうは言うものの，1942年にはユダヤ人の強制移送を完遂することはできなかった。ただし，親独政治家の命とか政治生命が脅かされるようなことはなかった。（第二次世界大戦後になると，スロバキアで政治に関与していたフリンカ・スロバキア人民党の政治家の中には，そのように主張をする者もいた。）ルーマニアは，ユダヤ人をルーマニア領から強制移送するとの合意を反故にしたが，しかしドイツ側がミハイ・アントネスクを排除することはなかった。同様にハンガリーでは，圧力を受けたにもかかわらず，カーライ政権は1942年のユダヤ人強制移送を回避した。会談の経過について外務次官ルターが残した文書に基づけば，ハンガリーやルーマニアがユダヤ人の強制移送を免れた理由は，各国の移送留保が［ドイツとの］二国間外交協議の対象になったからと言うことができよう。ドイツは各国に圧力をかけたが，ユダヤ人を強制移送しないからと言って，その国の政権担当者を恫喝したり，その地位から引きずり下ろしたりしたことを記録する公文書は存在しない。

各国の政権担当者は，自国以外の国がナチス・ドイツと独自に協議していることを完全には掴(つか)んではいなかった。しかし，ユダヤ人がスロバキアから強制移送されたとき，スロバキアの政権担当者は，一例を挙げると，スロバキアに居住するハンガリー国籍のユダヤ

人を［東方へ］移送せずにハンガリーに引き渡さなければならないということをよく知っていた。このことは明らかである。

ナチスは，各国の政府，国家機関，警察機関などの諸機関から支援を得られなければ，ユダヤ人を強制移送できないことを十分に認識していた。このことは，言っておく必要がある。スロバキアの事例を見れば，強制移送を実行したのは［ドイツ軍ではなく］スロバキアの人たちであったことが分かる(131)。占領後の1944年にユダヤ人が強制移送されたハンガリーでも，事情は同じである(132)。ハンガリーの国家機関や政治機関の協力がなければ，アイヒマンのいわゆる実行部隊［アイヒマン特別分遣隊（アイザッツグルッペ）］が，わずか数ヶ月間で大量の強制移送を実行することはできなかったであろう。

したがって，すでに1942年の時点においてか，あるいはもう少し後の1944年か1945年までかはともかくとして，スロバキア，ルーマニア，ハンガリー三ヶ国の政治エリートは，その国独自の反ユダヤ主義的政策を実施したり，あるいはナチス・ドイツに協力してユダヤ人の強制移送を準備・遂行したりしたのであって，そのことにたいする政治責任は免れることができない。

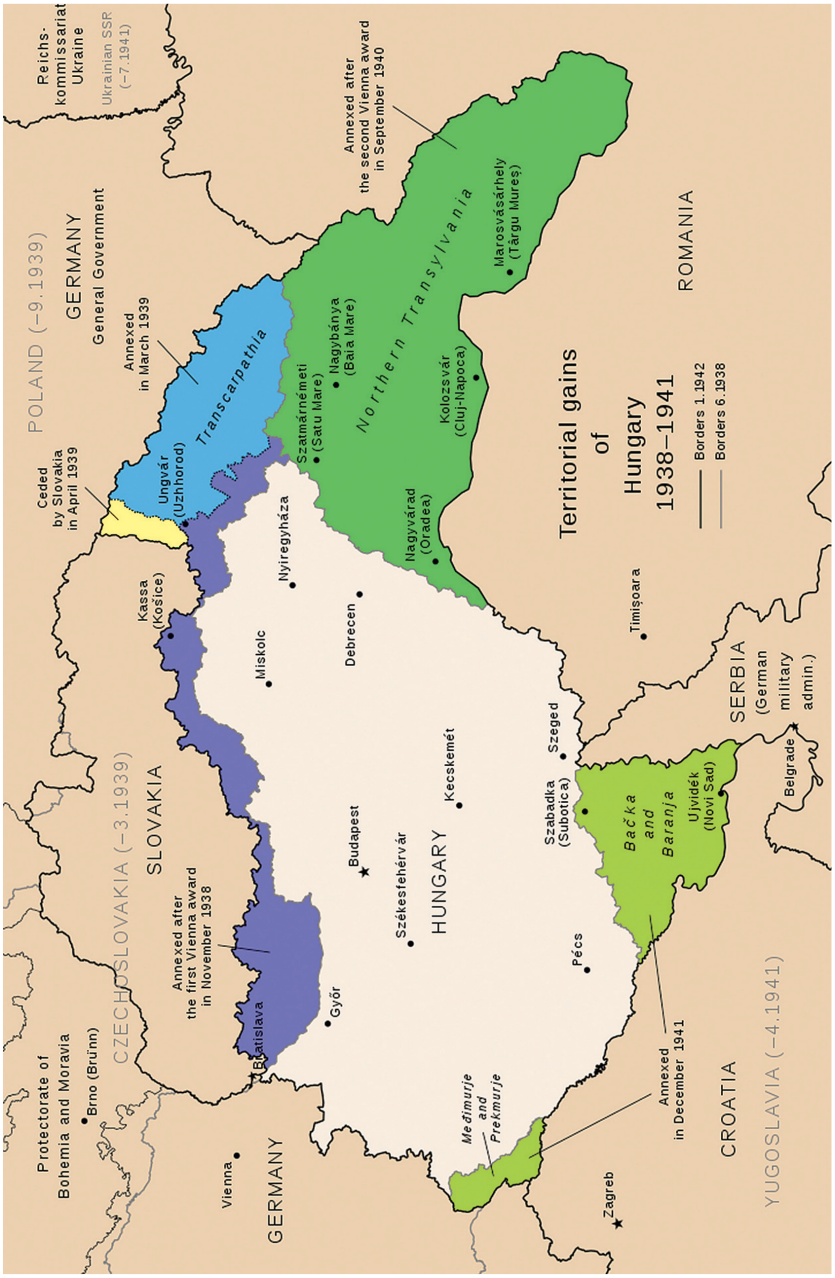
【付記】本稿は，「公文書から見た1938年～1945年のスロバキアとドイツとの関係（ミュンヘン［協定］から終戦まで）」（*Slovak – German relations in the period 1938–1945 in documents (From Munich to the end of the war)*）（課題番号APVV0352-07）にかんする研究成果の一部である。

(131) より詳しくは，次を参照。Eduard Nižňanský (ed.), *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942*, [Holocaust in Slovakia 6. Deportations in 1942,] Bratislava: NMŠ, 2005.

(132) 1944年7月11日，ドイツ大使フェーゼンマイヤーは，ブダペストから外務省に，次のようなハンガリー外務省の見解を報告した。

> ハンガリー，ルーマニア，スロバキアではドイツによるユダヤ人問題の取扱が異なっているために，ハンガリー政府の立場が困難になっているということ……。当地では，我々が［ハンガリー］政府にたいしてユダヤ人への最も厳しい措置を求めているのに，ルーマニアやスロバキアでは，そこに居住するユダヤ人をはるかに寛大に取り扱うことが許されている。それだけでなく，ルーマニアからはパレスチナに向かうユダヤ人の移民船が定期運航されている。ブカレストとプレスブルク［ブラチスラバのドイツ語名］に駐在するハンガリー公使館からの報告によると，ここ数週間，多かれ少なかれ当局から公然と黙認されて，ハンガリーのユダヤ人が多数，ルーマニアとかスロバキアへと不法に越境しているとのことである。それのみならず，最近ルーマニアは度を超して，パレスチナへの［ルーマニアの］ユダヤ人の輸送人員を20%も水増しして，その中にハンガリーのユダヤ人を紛れ込ませている。［ルーマニアが］我が方の敵から良く思われたいからそうとしているのであって，それは紛れもない事実である。したがって，うわべを見れば，ユダヤ人問題にたいするルーマニアとスロバキアの立場は，敵国や中立国からかなりの憎しみを買っているハンガリーとは異なった印象を与えている。このために，ハンガリー政府の立場は非常に悪くなっている。……（PA AA Berlin, f. Inland II — geheim. Die Judenfrage in Ungarn — Bd. 209, Nr. 2279, years 1943–1944, microfiche R 100.891.）

参 考 資 料



地図 1　ウィーン裁定（1938 年～1941 年）によるハンガリーの獲得領土

1938 年 11 月；1939 年 3 月；1939 年 4 月；1940 年 9 月；1941 年 12 月

（出所）“On this Day, in 1938: the First Vienna Award forced Czechoslovakia to surrender territory to Hungary,” by Kafkadesk Budapest Office, 2 November, 2021, from: https://kafkadesk.org/2021/11/02/on-this-day-in-1938-the-first-vienna-award-forced-czechoslovakia-to-surrender-territory-to-hungary/.

地図２　中欧東部（1910年）

［訳注］1941年と1942年にユダヤ人の虐殺があったブコヴィナ，ベッサラビア，トランスニストリアは，ルーマニア（当時）の北東部にある（脚注66参照）。1942年に強制移送の協議対象となったユダヤ人が居住していたトランシルバニアはルーマニア中央部に，またバナトはルーマニア西部にある。

（出所）Figure 1. Map of East-Central Europe, 1910, in: Marius Turda (ed.), *The History of East-Central European Eugenics, 1900–1945: Sources and Commentaries*, London: Bloomsbury Publishing Plc, 2015, p. xxiv, from: https://www.bloomsburycollections.com/book/the-history-of-east-central-european-eugenics-1900-1945-sources-and-commentaries/maps